

第 5 回 復 興 道 路 会 議 ～福島県～

日時：平成 27 年 6 月 4 日（木）

10：00～12：00

場所：伊達市役所保原本庁舎 1 階大会議室

議 事 次 第

1. 挨 拶

国土交通省 東北地方整備局 道路部長

福島県 土木部長

伊達市長

2. 議 事

1) 復興道路・復興支援道路の進捗確認について 資料 1～3

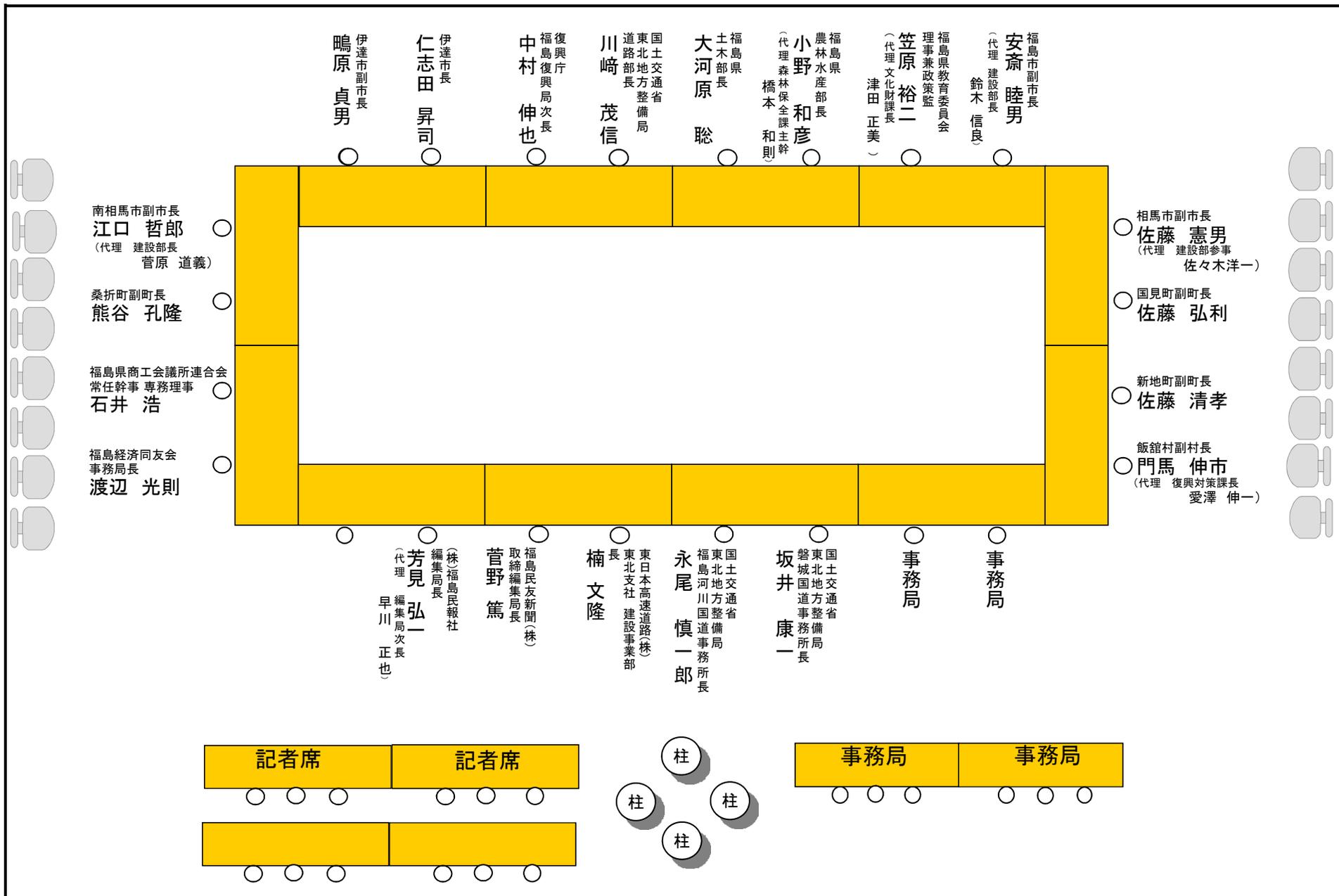
2) 事業進捗の「見える化」の取り組み状況の
情報共有と継続実施の確認について 資料 4

3) 復興道路等を活かした地域振興策、
地域づくり事例の情報共有について 資料 5～7

4) その他

第5回復興道路会議～福島県～ 配席図

伊達市役所保原本庁舎 1階大会議室



「復興道路会議～福島県～」

役 職 名	氏 名
福島県土木部長	大河原 聡
福島県農林水産部長	小野 和彦
福島県教育委員会 理事兼政策監	笠原 裕二
福島市副市長	安斎 睦男
相馬市副市長	佐藤 憲男
南相馬市副市長	江口 哲郎
伊達市副市長	嶋原 貞男
桑折町副町長	熊谷 孔隆
国見町副町長	佐藤 弘利
川俣町副町長	伊藤 智樹
新地町副町長	佐藤 清孝
飯舘村副村長	門馬 伸市
一般社団法人東北経済連合会 専務理事	渡辺 泰宏
福島県商工会議所連合会 専務理事	石井 浩
福島経済同友会 事務局長	渡辺 光則
株式会社福島民報社 編集局長	芳見 弘一
福島民友新聞株式会社 編集局長	菅野 篤
東日本高速道路株式会社東北支社 建設事業部長	楠 文隆
復興庁 福島復興局次長	中村 伸也
国土交通省 東北地方整備局 道路部長	川崎 茂信
国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所長	永尾 慎一郎
国土交通省 東北地方整備局 磐城国道事務所長	坂井 康一

敬称略

復興道路会議～福島県～ 規約

(名称)

第1条 本会議は、「復興道路会議～福島県～」と称する。

(目的)

第2条 本会議は、東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路等の早期完成を図るため、全ての関係者に対する事業進捗への合意形成と、国・県・市町村・関係機関の連携による課題解決を目的として開催する。

(協議事項)

第3条 本会議は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる連絡及び調整を行う。

- 一 事業の合意形成に関する事項
- 二 事業促進の課題解決に関する事項
- 三 その他本会の目的を達成するために必要な事項

(対象事業)

第4条 本会議で対象とする復興道路は、以下のとおりとする。

- 一 東北中央自動車道（相馬～福島）
- 二 その他

(組織)

第5条 本会議は、以下の構成員をもって組織する。

- 一 福島県、復興庁 福島復興局
国土交通省 東北地方整備局、東日本高速道路(株)東北支社
- 二 復興道路等の関係市町村
- 三 地域経済界及び報道関係代表

(事務局)

第6条 本会議の庶務は、福島県土木部及び国土交通省東北地方整備局道路部において処理する。

(雑則)

第7条 この規約に定めるもののほか、本会議の運営に関して必要な事項は会議において定める。

資 料 一 覧

- 次第
- 第5回復興道路会議～福島県～ 配席図
- 復興道路会議～福島県～ 構成員
- 復興道路会議～福島県～ 規約
- 復興道路・復興支援道路の概要
- 復興道路・復興支援道路（福島県内）
- 資料－1 復興道路・復興支援道路の各路線別進捗状況
- 資料－2 各事業区間別進捗状況（福島県）
- 資料－3 東北地方整備局の主な事業の進捗状況
- 資料－4 復興道路・復興支援道路の「見える化」
【国土交通省の取り組み事例】
- 資料－5 事例発表【福島県】
- 資料－6 事例発表【東日本高速道路株式会社】
- 資料－7－1 事例発表【新地町】
- 資料－7－2 事例発表【相馬市】
- 資料－7－3 事例発表【伊達市】
- 資料－7－4 事例発表【桑折町】
- 資料－7－5 事例発表【福島市】

復興道路・復興支援道路の概要

H27.5.15現在

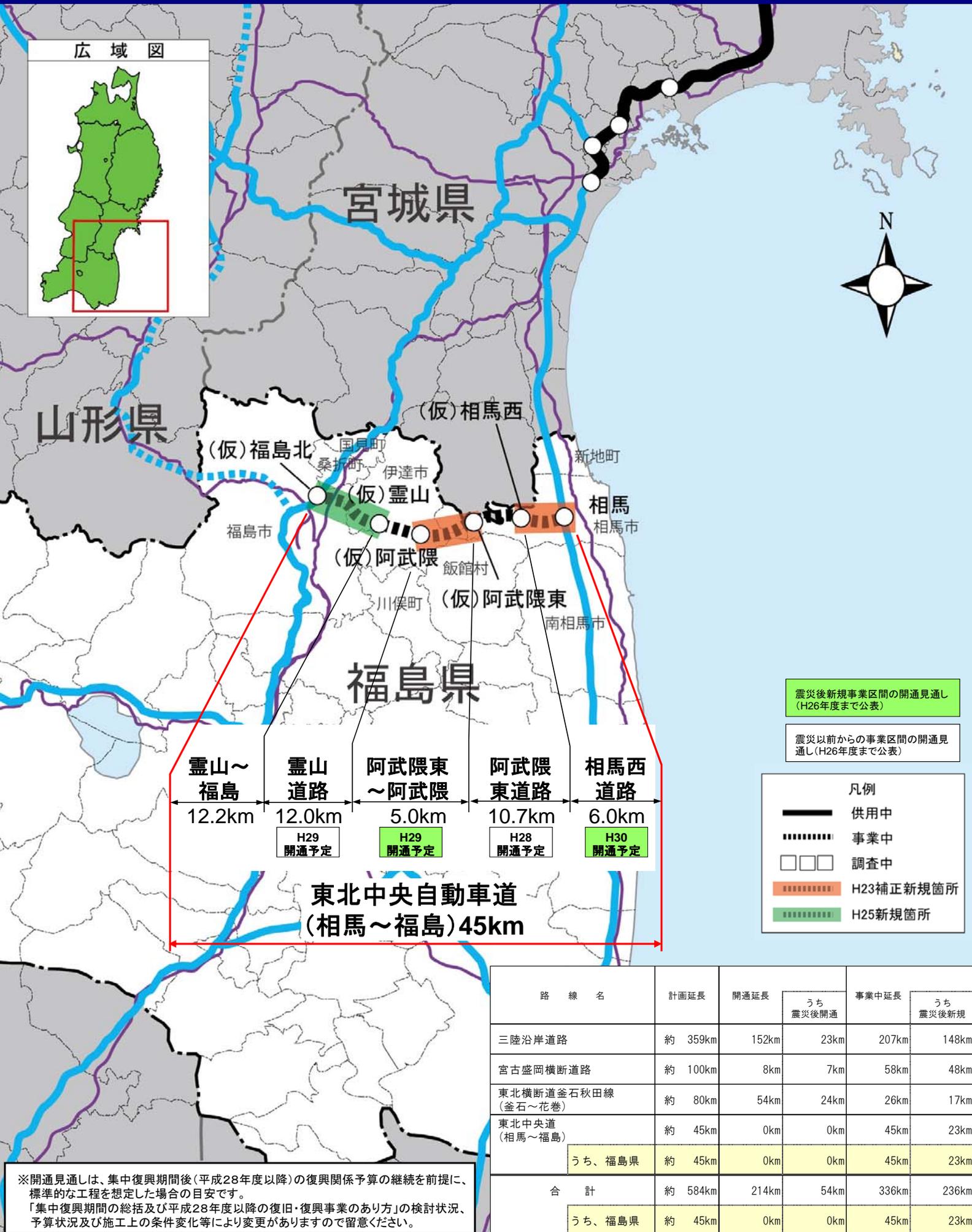
復興道路・復興支援道路の総延長584km
 [震災後新規区間236km(40%)]



路線名	計画延長	開通延長	事業中延長	
			うち震災後開通	うち震災後新規
三陸沿岸道路	約 359km	152km	23km	207km
宮古盛岡横断道路	約 100km	8km	7km	58km
東北横断自動車道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	54km	24km	26km
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	0km	45km
計	約 584km	214km	54km	336km
みやぎ県北高速幹線道路	約 24km	9km	9km	11km
合計	約 608km	223km	63km	247km

福島県内の概要

H27.5.15現在



復興道路・復興支援道路の各道路別進捗状況（平成27年3月31日現在）

資料－1

《平成26年度の進捗状況》

- 復興道路・復興支援道路の**用地進捗率は約9割、主要構造物着手率は約6割**まで進捗
- 東北中央道(相馬～福島)5区間45kmのうち、**4区間34kmが平成30年度までに開通予定**
- 東北中央道 霊山～福島間がH26.9.28に着工し、**震災後、国直轄事業で新規事業化した19区間全てで工事着手**

路線名	計画延長	開通延長	事業中延長	用地進捗率※1	工事着手率※2	主要構造物着手率※3	主要構造物完成率※4	トンネル掘削進捗率※5	橋の上部工着手率※6
三陸沿岸道路	約 359km	152km	207km	約80%	約90%	約55%	約25%	—	—
		152km	207km	約90%	約95%	約70%	約35%	約35%	約45%
宮古盛岡横断道路	約 100km※	8km	58km	約70%	約60%	約35%	約30%	—	—
		8km	58km	約90%	約75%	約40%	約30%	約10%	約40%
東北横断道釜石秋田線 (釜石～花巻)	約 80km	54km	26km	約90%	100%	約65%	約45%	—	—
		54km	26km	約95%	100%	約75%	約55%	約85%	約55%
東北中央道 (相馬～福島)	約 45km	0km	45km	約60%	約80%	約65%	約15%	—	—
		0km	45km	約85%	約90%	約65%	約25%	約55%	約50%
合計	約 584km	214km	336km	約80%	約90%	約55%	約25%	—	—
		214km	336km	約90%	約95%	約65%	約35%	約35%	約45%

※未事業化区間約34kmを含む

三陸沿岸道路(4車線化)	約 52km	11km	41km	100%	100%	100%	約75%	—	—
		32km	20km	100%	100%	100%	約90%	—	100%

【宮城県】 みやぎ県北高速幹線道路	約 24km	9km	11km	約70%	約45%	約65%	約65%	—	—
		9km	11km	約85%	約80%	約70%	約65%	—	約65%

※1: 用地進捗率 = 取得済面積 (ha) / 必要面積 (ha)
 ※2: 工事着手率 = 工事に着手したIC間延長 / 計画済延長
 ※3: 主要構造物着手率 = (着手済 + 完成済構造物数) / 全構造物数
 ※4: 主要構造物完成率 = 完成済構造物数 / 全構造物数
 ※5: トンネル掘削進捗率 = トンネル掘削延長 / トンネル計画延長
 ※6: 橋の上部工着手率 = (上部工着手済 + 完成済橋梁数) / 全橋梁数

【福島県】各事業区間の進捗状況

(平成27年5月15日現在)

路線名	事業区間名	延長	開通予定	用地進捗率 (面積ベース) ※1	埋蔵文化財 調査完了率 ※2	保安林解除	事業進捗上の課題
				上段:H26.3.31現在 下段:H27.3.31現在			
東北中央自動車道(相馬～福島)							
	相馬西道路 (相馬～相馬西)	6.0km	H30年度	約88%	約30%	1箇所/1箇所申請済	・用地取得の推進
				約99%	約40%	1箇所/1箇所申請済	
	阿武隈東道路	10.7km	H28年度	約98%	100%	対象外	
				100%	100%		
	阿武隈東～阿武隈	5.0km	H29年度	約97%	約40%	1箇所/1箇所解除済	・用地取得の推進
				約97%	100%	1箇所/1箇所解除済	
	霊山道路	12.0km	H29年度	約86%	約40%	3箇所/3箇所解除済	・用地取得の推進
				約99%	約90%	3箇所/3箇所解除済	
	霊山～福島	12.2km	—	0%	—	対象外	・用地取得の推進
				約50%	0%		

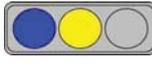
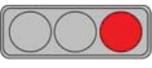
※1: 用地進捗率=取得済面積(ha) / 必要面積(ha)

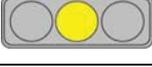
※2: 埋蔵文化財調査完了率=本調査完了面積(ha) / 調査対象面積(ha)

東北地方整備局の主な事業の進捗状況

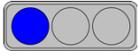
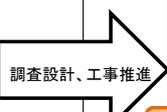
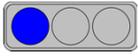
事業の透明性を向上させ、事業への理解を促進するための取り組みとして、東北地方整備局が進めている主な事業の進捗状況について、公表いたします。

－ 凡 例 －

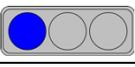
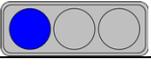
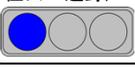
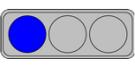
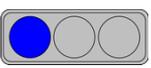
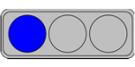
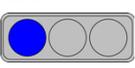
事業名	平成26年度 事業内容	平成27年度 事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考
〇〇事業 	・用地買収 ・〇〇工事 ・調査設計	・〇〇工事 ・調査設計	工事推進、調査設計						
〇〇事業 	・用地買収 ・〇〇工事 ・調査設計	・〇〇工事	工事推進						進捗状況に課題が生じている、 又は、生じる可能性がある場合
〇〇事業 	・用地買収 ・〇〇工事 ・調査設計	・〇〇工事	工事推進						進捗状況に遅れが生じており、完成時期が遅れる可能性がある場合
〇〇事業 	・用地買収 ・〇〇工事 ・調査設計	・〇〇工事	工事推進						課題解決の見通しがたっており、 完成時期が遅れる見込み
〇〇事業 	・〇〇工事	・〇〇工事	工事推進						課題解決の見通しがたっており、 現時点では完成時期が不明である場合

	予定どおりに進捗しているもの
	今後の進捗における課題が生じている、または、生じる可能性があるもの
	課題への対応に伴い、事業進捗に遅れが生じており、完成時期が遅れる可能性があるもの
	課題解決に時間を要し、計画よりも完成時期が遅れる見込みであるもの
	課題解決の見通しがたっており、現時点では完成時期が不明であるもの

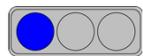
高規格幹線道路・地域高規格道路事業の進捗状況

番号	県名	事業名	平成26年度 事業内容	平成27年度 事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考
1	岩手	東北横断自動車道 釜石秋田線 遠野～宮守 	・改良工事 ・舗装工事 ・調査設計	・舗装工事 ・調査設計	調査設計、工事推進 						・遠野IC～宮守IC L=9.0km(2/4) 平成27年度開通予定
2	宮城 岩手	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (唐桑北～陸前高田) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進 						・(仮称)唐桑北IC～陸前高田IC L=10.0km(2/2) 平成30年度開通予定
3	岩手	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (吉浜道路) 	・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・舗装工事 ・調査設計	・改良工事 ・橋梁工事 ・舗装工事 ・調査設計	調査設計、工事推進 						・(仮称)三陸IC ～(仮称)吉浜IC L=3.6km(2/2) 平成27年度開通予定
4	岩手	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (吉浜～釜石) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進 						・(仮称)吉浜IC ～(仮称)釜石JCT L=14.0km(2/2) 平成30年度開通予定
5	岩手	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (釜石山田道路) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進 						・(仮称)釜石JCT ～釜石両石IC L=5.6km(2/2) 平成30年度開通予定 ・釜石北IC ～(仮称)大槌IC L=4.8km(2/2) 着手後概ね10年程度を目指すものの、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定 ・(仮称)大槌IC ～山田南IC L=8.0km(2/2) 平成30年度開通予定
6	岩手	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (山田～宮古南) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進 						・山田IC～宮古南IC L=14.0km(2/2) 平成29年度開通予定
7	岩手	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (宮古中央～田老) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進 						・宮古中央IC ～(仮称)田老第2IC L=17.0km(2/2) 平成32年度開通予定 ・(仮称)田老第2IC～(仮称)田老北IC L=4.0km(2/2) 平成29年度開通予定

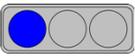
高規格幹線道路・地域高規格道路事業の進捗状況

番号	県名	事業名	平成26年度 事業内容	平成27年度 事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考	
8	岩手	一般国道45号 八戸・久慈自動車道 三陸沿岸道路 (久慈北道路) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	・用地買収 ・橋梁工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成30年度開通予定 (仮称)待浜IC～久慈北IC		・(仮称)待浜IC～久慈北IC L=7.4km(2/2) 平成30年度開通予定
9	岩手	一般国道283号 東北横断自動車道 釜石秋田線 釜石花巻道路 (釜石～釜石西) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成30年度開通予定 (仮称)釜石JCT～(仮称)釜石西IC		・(仮称)釜石JCT～(仮称)釜石西IC L=6.0km(2/2) 平成30年度開通予定
10	岩手	一般国道283号 東北横断自動車道 釜石秋田線 釜石花巻道路 (遠野住田～遠野) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成30年度開通予定 遠野住田IC～遠野IC		・遠野住田IC～遠野IC L=11.0km(2/2) 平成30年度開通予定
11	岩手	一般国道45号 三陸北縦貫道路 三陸沿岸道路 (田老～岩泉) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成29年度開通予定 (仮称)田老北IC～岩泉龍泉洞IC		・(仮称)田老北IC ～岩泉龍泉洞IC L=6.0km(2/2) 平成29年度開通予定
12	岩手	一般国道106号 宮古盛岡横断道路 (宮古～箱石) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成32年度開通予定 宮古市藤原～(仮称)松山IC 平成31年度開通予定 宮古市下川井地区 開通時期未定 宮古市根市～宮古市箱石		・宮古市藤原 ～(仮称)松山IC L=4.0km(2/4) 平成32年度開通予定 ・宮古市根市 ～宮古市箱石 L=27.0km(2/2) 着手後概ね10年程度を 目指すものの、完成に 向けた円滑な事業実施 環境が整った段階で 確定予定 ・宮古市下川井地区 L=2.0km(2/2) 平成31年度開通予定
13	岩手	一般国道106号 宮古盛岡横断道路 (都南川目道路) 	・用地買収 ・改良工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・トンネル工事 ・舗装工事 ・調査設計	工事推進					平成27年度開通予定 (仮称)川目IC～(仮称)田の沢IC 平成31年度開通予定 (仮称)田の沢IC～(仮称)手代森IC		・(仮称)川目IC ～(仮称)田の沢IC L=2.6km(2/2) 平成27年度開通予定 ・(仮称)田の沢IC ～(仮称)手代森IC L=3.4km(2/2) 平成31年度開通予定
14	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (仙塩道路) 	・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	調査設計、工事推進					平成27年度開通予定 仙台港北IC～利府中IC		・仙台港北IC～利府中IC (仮称)多賀城IC含む) L=7.8km(4/4) 平成27年度開通予定

高規格幹線道路・地域高規格道路事業の進捗状況

番号	県名	事業名	平成26年度 事業内容	平成27年度 事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考
15	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (矢本石巻道路) 	・改良工事 ・橋梁工事 ・舗装工事 ・調査設計	・改良工事 ・橋梁工事 ・舗装工事 ・調査設計	調査設計	→	→				<ul style="list-style-type: none"> 石巻北IC～桃生豊里IC L=12.1km(4/4) 平成27年度開通予定 ↓ 平成28年度開通予定 石巻北IC平成27年秋開通予定 <p>〔進捗状況〕 ・軟弱地盤改良施工時の支障物(転石)により作業効率が低下し、工事工程に遅延が発生</p>
16	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (登米志津川道路) 	・改良工事 ・舗装工事 ・調査設計	・舗装工事 ・調査設計	調査設計、工事推進	→					<ul style="list-style-type: none"> 登米東和IC ～(仮称)志津川IC L=11.1km(2/2) 平成27年度開通予定
17	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (南三陸道路) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進	→	→				<ul style="list-style-type: none"> (仮称)志津川IC ～(仮称)南三陸海岸IC L=3.0km(2/2) 平成28年度開通予定 (仮称)南三陸海岸IC ～(仮称)歌津IC L=4.2km(2/2) 平成29年度開通予定 平成28年度開通予定 (仮称)志津川IC ～(仮称)南三陸海岸IC 平成29年度開通予定 (仮称)南三陸海岸IC～(仮称)歌津IC
18	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (歌津～本吉) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進	→	→				<ul style="list-style-type: none"> (仮称)歌津IC ～(仮称)歌津北IC L=4.0km(2/2) 平成30年度開通予定 (仮称)歌津北IC ～(仮称)本吉IC L=8.0km(2/2) 着手後概ね10年程度を目指すものの、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定 平成30年度開通予定 (仮称)歌津IC～(仮称)歌津北IC 開通時期未定 (仮称)歌津北IC～(仮称)本吉IC
19	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (本吉気仙沼道路) 	・用地買収 ・改良工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進	→					<ul style="list-style-type: none"> (仮称)大谷IC ～(仮称)気仙沼IC L=7.1km(2/4) 平成29年度開通予定 平成29年度開通予定 (仮称)大谷IC～(仮称)気仙沼IC
20	宮城	一般国道45号 三陸縦貫自動車道 三陸沿岸道路 (気仙沼～唐桑南) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進	→	→				<ul style="list-style-type: none"> (仮称)気仙沼IC ～(仮称)気仙沼港IC L=1.7km(2/2) 平成31年度開通予定 (仮称)気仙沼港IC ～(仮称)唐桑南IC L=7.3km(2/2) 着手後概ね10年程度を目指すものの、完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定 平成31年度開通予定 (仮称)気仙沼IC～(仮称)気仙沼港IC 開通時期未定 (仮称)気仙沼港IC～(仮称)唐桑南IC
21	山形 福島	東北中央自動車道 福島～米沢 	・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・舗装工事 ・調査設計	・改良工事 ・トンネル工事 ・舗装工事 ・調査設計	調査設計、工事推進	→	→				<ul style="list-style-type: none"> (仮称)福島JCT ～(仮称)大笹生IC L=1.9km(2/4) 平成28年度開通予定 (仮称)大笹生IC ～(仮称)米沢IC L=26.1km(2/4) 平成29年度開通予定 平成28年度開通予定 (仮称)福島JCT～(仮称)大笹生IC 平成29年度開通予定 (仮称)大笹生IC～(仮称)米沢IC

高規格幹線道路・地域高規格道路事業の進捗状況

番号	県名	事業名	平成26年度 事業内容	平成27年度 事業内容	H26	H27	H28	H29	H30	H31以降	備考
22	福島	一般国道115号 東北中央自動車道 相馬福島道路 (相馬～相馬西) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成30年度開通予定 相馬IC～(仮称)相馬西IC	相馬IC～(仮称)相馬西IC L=6.0km(2/2) 平成30年度開通予定
23	福島 宮城	一般国道115号 東北中央自動車道 相馬福島道路 (阿武隈東道路) 	・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	トンネル工事 ・調査設計	調査設計、工事推進					平成28年度開通予定 (仮称)相馬西IC～(仮称)阿武隈東IC	・(仮称)相馬西IC ～(仮称)阿武隈東IC L=10.7km(2/2) 平成28年度開通予定
24	福島	一般国道115号 東北中央自動車道 相馬福島道路 (阿武隈東～阿武隈) 	・用地買収 ・改良工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成29年度開通予定 (仮称)阿武隈東IC～(仮称)阿武隈IC	・(仮称)阿武隈東IC ～(仮称)阿武隈IC L=5.0km(2/2) 平成29年度開通予定
25	福島	一般国道115号 東北中央自動車道 相馬福島道路 (霊山道路) 	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	・用地買収 ・改良工事 ・橋梁工事 ・トンネル工事 ・調査設計	調査設計、用地買収、工事推進					平成29年度開通予定 (仮称)阿武隈IC～(仮称)霊山IC	・(仮称)阿武隈IC ～(仮称)霊山IC L=12.0km(2/2) 平成29年度開通予定
26	福島	一般国道121号 会津縦貫北道路 	・改良工事 ・橋梁工事 ・舗装工事 ・調査設計	・改良工事 ・橋梁工事 ・舗装工事 ・調査設計	調査設計、工事推進					平成27年度開通予定 湯川南IC～会津若松北IC	湯川南IC～会津若松北IC L=3.0km(2/4) 平成27年度開通予定

◆復興道路・復興支援道路の見える化（平成26年度）

- 起工式、現場見学会、地域の復興支援、自治体での事業進捗等、見える化を紹介

◆復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み**○住民参加による各種式典の開催**

- ・式典への住民参加事例を紹介

○現場見学会における進捗状況の説明

- ・夏休みを活用した現場見学会、体験学習を併用した現場見学会を紹介

○市町村役場等における進捗状況発信

- ・市町村役場や道の駅、観光施設等において「モニター」「説明看板」や「かわら版」「HP」等による情報発信を紹介

○地域とのコミュニケーションを重視した取り組み

- ・施工企業のCSR活動の見える化を紹介

◆県別・市町村別における「見える化」の取り組み**○岩手県**

- ・県及び市町村で実施する現場見学会や広報を紹介
- ・好事例を紹介

○宮城県

- ・市町村で実施する現場見学会や広報を紹介
- ・好事例を紹介

○福島県

- ・県及び市町村で実施する現場見学会や広報を紹介
- ・好事例を紹介

復興道路・復興支援道路の見える化（平成26年度）

～ 総延長584km 214km開通済 113km新規開通見通し発表 ～

復興道路・復興支援道路 開通目標



◇起工式

Tn貫通式等

41回
新聞90回報道
テレビ74回放映

トンネル貫通式
吉浜トンネル(大船渡市)(H26.4.25)



◇現場見学会等

67回
約2,900人

H25年度
64回 約2,700人

南三陸道路
4号トンネル見学会(南三陸町)(H26.6.5)



◇復興道路専用COプラントの稼働

8月31日:宮古地区
9月3日:釜石地区

宮古地区
COプラント稼働式(宮古市)(H26.8.31)



◇地域復興支援

発生土提供
42地区250万m³
(H26年度内予定)

H25年度末
44地区140万m³提供済

区画整理事業への
発生土提供(釜石市)



◇市町村等での進捗状況の発信

134箇所

- ・市町村ロビー 24箇所
- ・道の駅等 27箇所
- ・現地看板 49箇所
- ・進捗状況写真展 34箇所

整備進捗状況
パネル展示状況(相馬市)(H26.7.26)



◇HPIによる情報発信

約19万ヒット<H27.3末>
H25年度約13万ヒット



復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(1)

●住民参加による各種式典の開催

- ◆工事の節目に行う式典(トンネル貫通式、橋梁連結式等)において住民参加の各種式典を開催。
- ◆工事の進捗状況について理解を深め、地域とのコミュニケーションを重視。

【三陸沿岸道路 吉浜道路】

吉浜トンネル貫通式《岩手県大船渡市》
(H26.4.25)



▲近隣の4つの小中学生270名を含む地域の方々の参加により貫通式を開催。

【三陸沿岸道路 宮古田老道路】

山口第2トンネル着工式《岩手県宮古市》
(H26.10.10)



▲宮古田老道路において4本目のトンネル着工となる山口第2トンネルの着工を次代を担う地元小学生を招き開催。事業の進捗に理解を深めてもらった。

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(2)

●現場見学会における進捗状況の説明

- ◆小中学生や地域の方々、土木を専門に学んでいる高校生・大学生、復興道路等の事業を支援していただいている団体や自治体等、様々な方々が現場見学に参加。
- ◆夏休みを活用し親子で参加できる現場見学会の開催、体験学習を併用した現場見学会の開催等、工夫を凝らした現場見学会を開催。

【相馬福島道路 霊山道路】

夏休みを活用した現場見学会《福島県伊達市》

【三陸沿岸道路 矢本石巻道路】

体験学習を併用した現場見学会《宮城県石巻市》



▲金弁蔵トンネル等の構造物を見学(26.8.2)



▲高力ボルトの締め付け体験(26.12.3)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(3)

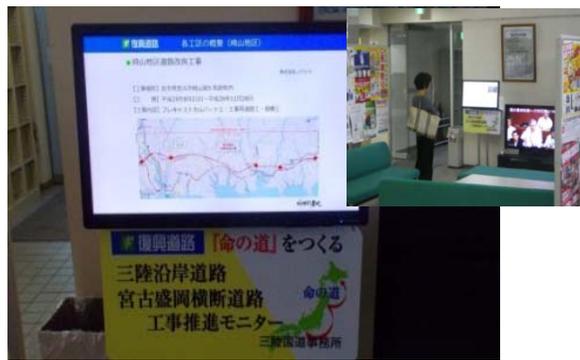
●市町村役場等における進捗状況発信

- ◆地域の方々が集まる市町村の役場・道の駅や観光客が集まる観光施設等においてモニター、かわら版、HP等を活用し、復興道路等の必要性や工事の進捗状況を発信。
- ◆地域の方々や道路利用者、観光客等を対象に進捗状況の見える化の取り組みを実施。

①復興道路等の沿線市町村ロビー等における情報提供の工夫



▲市役所のカウンター脇の小スペースを活用しモニターより情報を発信(岩手県釜石市)



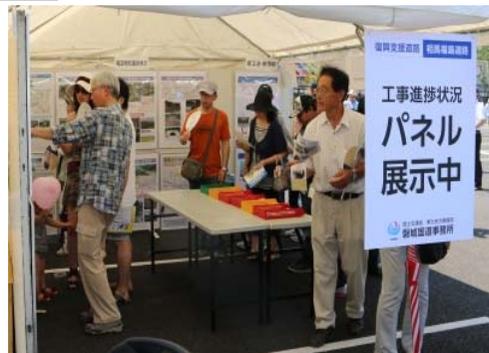
▲市役所の休憩スペースを活用しモニターより情報を発信(岩手県宮古市)

②沿線道の駅等における情報提供の工夫



▲メイントンネルの進捗状況を発信

▲道の駅「区界高原」における工事進捗状況の発信(岩手県宮古市)



▲イベントを活用した情報発信状況(福島県相馬市「市民のひろば」(H26.7.26))

③現場広報ポイントにおける説明看板の工夫



▲「吉浜釜石道路 荒川トンネル」では説明看板に三次元平面図を活用(岩手県釜石市)



▲統一看板への開通目標の掲示(岩手県遠野市)

④「かわら版」やHPによる情報発信



▲進捗状況をお知らせする「かわら版」



▲東北地方整備局の復興道路ポータルサイト(HP)

復興道路・復興支援道路の見える化の取り組み(4)

●地域とのコミュニケーションを重視した取り組み

- ◆次代を担う子供たちを含めた地域とのコミュニケーションをより重視して、施工企業のCSR活動とともに見える化の取り組みを実施。
- ◆国道45号摂待道路工事では、公共用プラントの愛称募集や地元中学生に体験学習の場を提供し、小鎚地区トンネル工事では、着工式で「ちびっこ虎舞」を披露した幼稚園児を現場見学会に招待する等、地域とのコミュニケーションを深める取り組みを実施。

【三陸沿岸道路 田老岩泉道路】

国道45号摂待道路工事 《岩手県宮古市》

【三陸沿岸道路 釜石山田道路】

小鎚地区トンネル工事 《岩手県大槌町》



▲PR看板応募作品



▲着工式(H25.10.10)
幼稚園児による
ちびっこ虎舞を披露



▲着工式でちびっこ虎舞を披露した幼稚園児を現場見学会に招待(H26.7.9)

▲プラント稼働式に愛称・PRボード
図案を応募してくれた小学生を招待
(H26.8.31)



▲地元中学生が「生コン造り」を体験する
総合学習の場を提供(H26.8.26)

○市町村別における「見える化」の取り組み

【岩手県】

岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・県政広報誌「いわてグラフ」、「県土づくりNEWS」やホームページで復興道路の情報を発信 ・民放4社の県政番組において復興道路の進捗状況を情報発信
盛岡市	<ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市ホームページで復興道路を紹介
宮古市	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催で地元住民等を対象とした復興道路現場見学会の実施
大船渡市	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の女性を対象とした「現場見学会」を主催
遠野市	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催で地元住民を対象とした現場見学会を実施
釜石市	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報へ三陸沿岸道路・釜石花巻道路の進捗状況を4頁にわたり掲載 【事例1】 ・市長室に三陸沿岸道路の模型を掲示
大槌町	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生とその保護者を対象とした「まちづくり現場見学会」を主催 ・町広報へ三陸沿岸道路・釜石山田道路の進捗状況を2頁にわたり掲載
山田町	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会ブログで工事進捗を発信 【事例2】
岩泉町	<ul style="list-style-type: none"> ・現場見学会(地域住民、小中学生、関係機関)を主催
田野畑村	<ul style="list-style-type: none"> ・村広報へ三陸沿岸道路・田野畑道路、尾肝要普代道路の進捗状況を8頁にわたり掲載
野田村	<ul style="list-style-type: none"> ・村民各戸に導入されているIP告知端末で三陸沿岸道路の工事進捗状況を発信
久慈市	<ul style="list-style-type: none"> ・久慈市ホームページで三陸沿岸道路の工事進捗状況を発信
洋野町	<ul style="list-style-type: none"> ・洋野町ホームページで三陸沿岸道路の工事進捗状況を発信

○市町村別における「見える化」の取り組み

【宮城県】

石巻市	・市政教室において市民を対象に三陸道の現場見学会を実施し、見識を深めて頂いた。
気仙沼市	・「海の市」に気仙沼湾横断橋の模型を展示 【事例1】
南三陸町	・町広報紙にて整備状況を周知 【事例2】

【宮城県】

事例1:「海の家」に気仙沼湾横断橋の模型を展示(気仙沼市)



事例2: 広報誌にて進捗状況を発信(南三陸町)

広報26年5月号



広報27年1月号



トンネル見学会

11月26日(水)、工事中の南三陸道路2号・3号トンネルを志津川小学校と戸倉小学校の児童が見学しました。トンネルが出来るまでの説明を受け、機械が実際に掘削する様子を目の前で見ました。また、今回見学に来る前に、トンネルを造るために必要なロックボルトのカバー一つひとつに児童が思いの言葉や絵を描きました。児童たちは自分が描いたカバーを見つけると、駆け寄って一緒に記念撮影をしたりしました。このカバーは工事が進むと隠れて見えなくなってしまうのですが、児童の思いとともにトンネルの一部としてずっと残りつづけます。

南三陸道路1号トンネル貫通!!

4月14日(月)、「復興道路」として整備を進める三陸自動車道のうち、志津川と歌津を結ぶ南三陸道路の1号トンネルの貫通式が現地(入谷字大沢地内)で行われました。衆議院議員小野寺五典、防衛大臣志津川中学校の生徒等が発破ボタンを押すと、爆発音とともに貫通点が除幕されました。南三陸道路では4か所のトンネルが整備されます。すでに4か所全て着工済みですが、貫通したのは1号トンネルが初めてです。1号トンネルの貫通が復興の追い風となることでしょうか。式の中では、貫通を祝い、志津川中学校3年生による合唱「歓喜の歌」が披露されました。

MINAMISANRIKU-TOWN TOPICS
町の話題

○市町村別における「見える化」の取り組み

【福島県】

福島市	<ul style="list-style-type: none"> ・福島市ホームページで復興道路を紹介
相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報誌「広報そうま」に事業進捗状況等を掲載 【事例1】 ・地域住民に進捗状況を周知するために復興道路の現場見学会を開催
伊達市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「だて市政だより」にて毎号掲載し情報提供 ・市内各小・中学校27校に工事状況ポスターを掲示 【事例2】
桑折町	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「広報こおり」によるPR ・桑折町ホームページに復興道路紹介ホームページをリンク
国見町	<ul style="list-style-type: none"> ・国見町ホームページに復興道路紹介ホームページをリンク

相馬福島道路の利活用について



花見山(福島市)



相馬港(相馬市)



相馬野馬追(南相馬市)

平成27年6月4日

福島県

【政策①】 避難者支援（被災地と避難先の往来円滑化）

県内外に多数の避難者、懸念されるコミュニティの崩壊

→ 避難者は、県内だけでなく、**全都道府県に分散**。
地域コミュニティの崩壊と、心のケアが課題。

<仮設住宅>



避難者の多い都道府県

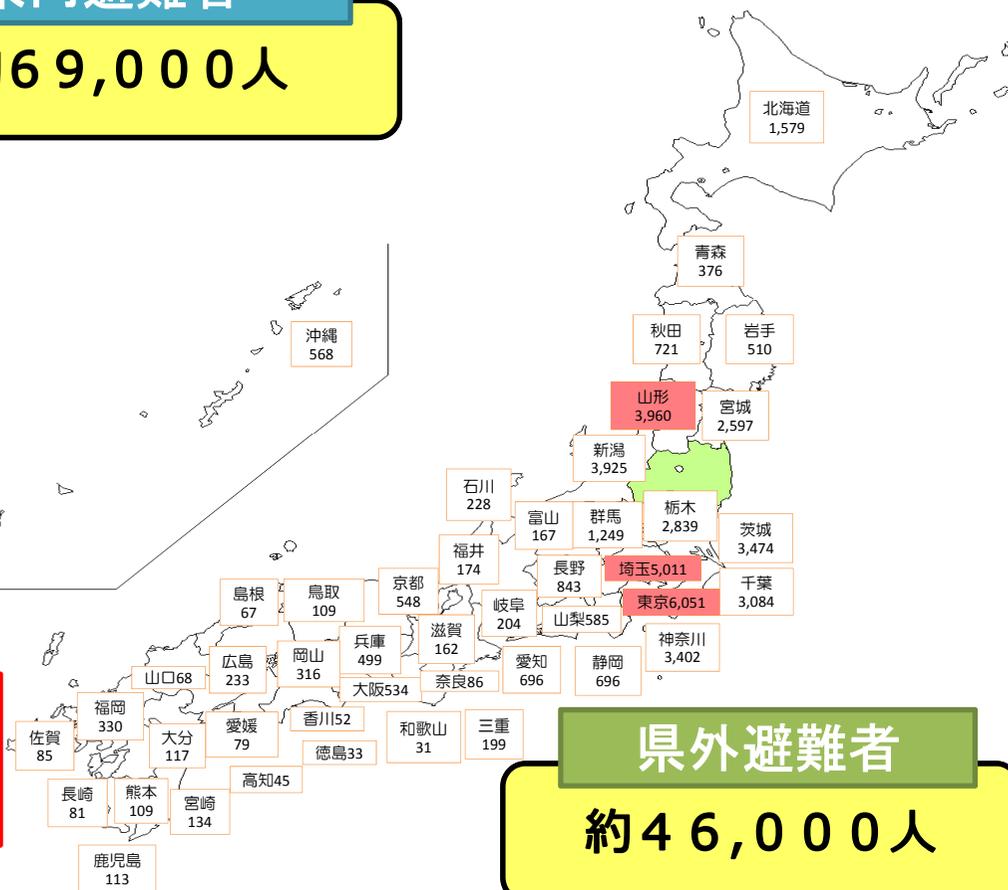
1	東京都	6,051人
2	埼玉県	5,011人
3	山形県	3,960人

沿岸部（相双）と内陸部（福島、山形）の
連携が不可欠
・相双地域から山形県や県北地方への避難者

県内避難者

約69,000人

（2015年3月現在）



県外避難者

約46,000人

【政策①】 避難者支援（被災地と避難先の往来円滑化）

安心して生活できる拠点づくり

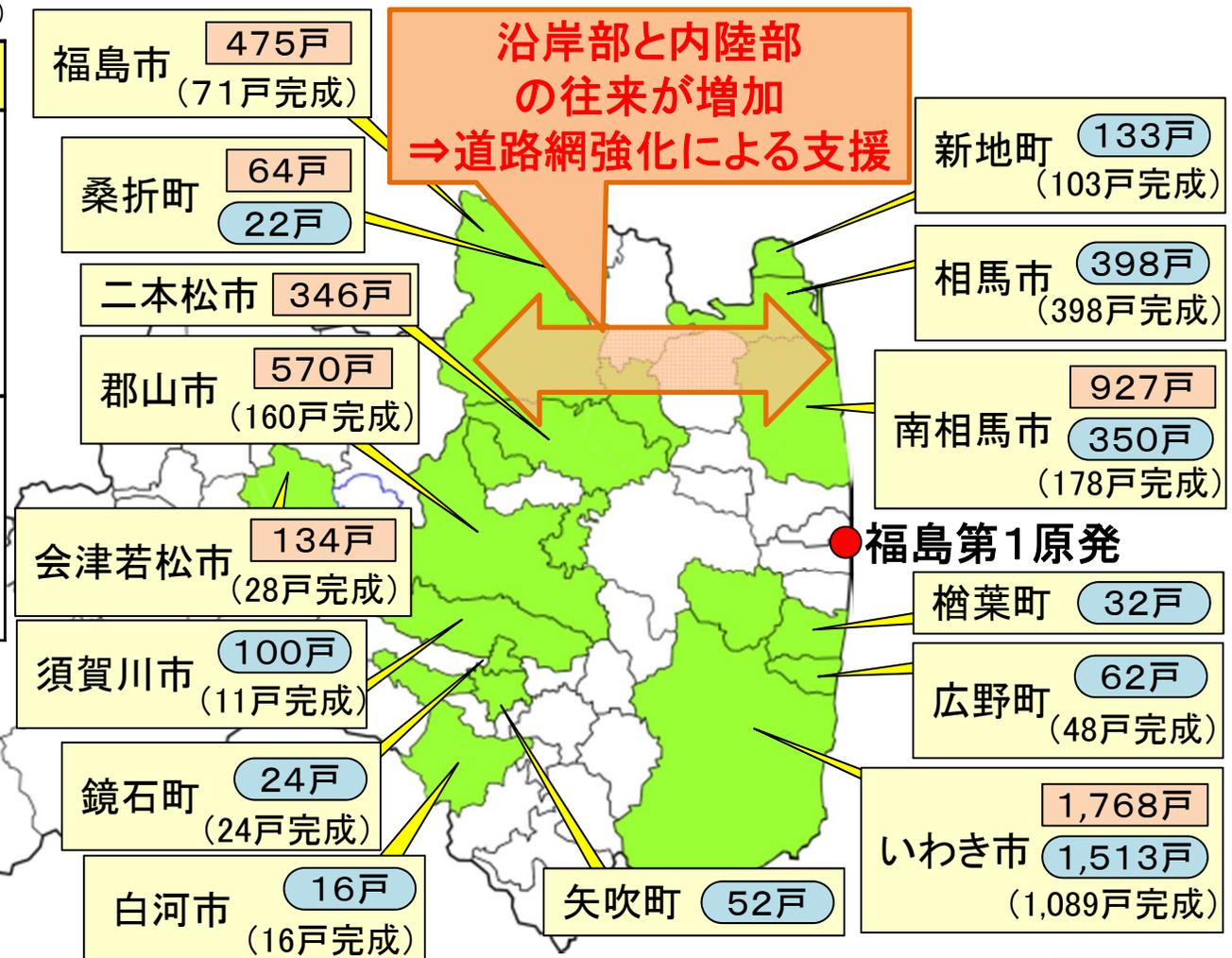
地震・津波被災者、原発避難者のための復興公営住宅等を整備

➔ 復興公営住宅等と沿岸部の往来交通の強化

（平成27年3月31日現在）

区分	整備予定	完成
原発避難者	4,890戸 (H27年度末までに1,161戸、29年度末まで4,521戸整備 残る369戸は用地決定次第公表)	509戸
地震・津波被災者	2,702戸 (11市町)	1,617戸

郡山市目和田団地1号棟



その他、川俣町、大玉村、三春町、川内村等で 508戸 3

重要港湾『相馬港』の概要

◆ 物流拠点

相双地域、県北地域を中心とする背後圏の物流基地として、
また相馬地域開発の拠点として重要な役割を担っている。

○火力発電所等の燃料を輸入するエネルギー基地

相馬共同火力発電(株)：石炭

石油資源開発(株)：LNG(予定)

○工業原材料等外内貿貨物の流通基地

丸三製紙(株)[南相馬市]：石炭、

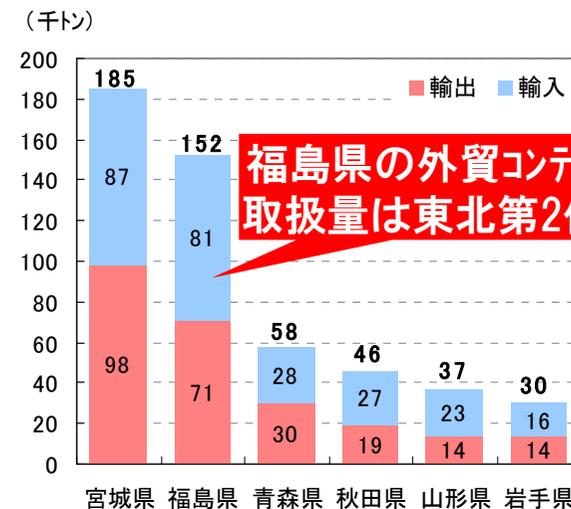
(株)ファイマテック[相馬市]：無水石膏、

(株)イイジマ[大玉村]：銑鉄、

キンセイマテック(株)[相馬市]：コレマナイト 等

○コンテナ航路による工場製品等の輸送基地

(株)シマ商会[南相馬市]：中古自動車部品 等



福島県の外貿コンテナ
取扱量は東北第2位

港湾利用拡大のポテンシャル

◆ ポートセールスの展開

○コンテナ航路の利用促進を図るため、事業者に対して輸送費用の一部助成を実施

相馬港海上コンテナ輸送利用促進助成事業

- ・荷主に対し、2万円/コンテナ1TEU を助成
- ・海運事業者に対し、輸送経費40万円 を助成
- ・福島市、米沢市等内陸の事業者へ積極的にPR中

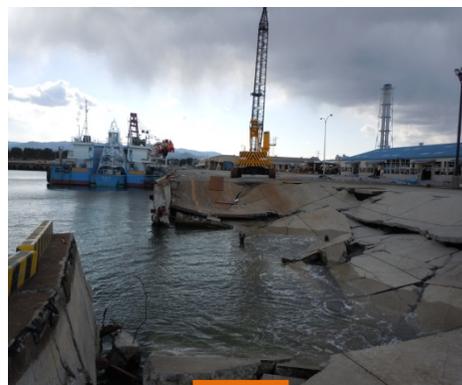
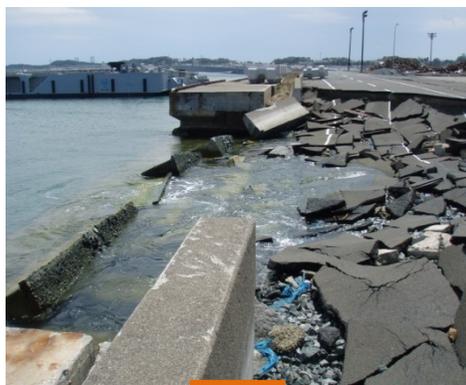
実施者：福島県相馬港利用促進協議会事務局（相馬市産業部）

➡ 相馬福島道路の整備により、陸・海のアクセス性が向上し、
物流効率化と生産性向上が期待される。

相馬港の復旧状況

岸壁(バース)の復旧については、
全13バース復旧完了(平成27年1月26日)

〔上：被災直後 下：現在の復旧状況〕



【政策②】 沿岸部における物流基盤強化・漁業再興



松川浦漁港の再興

平成24年6月 第1回試験操業
ミスヅコ・ヤナギタコ・シライトマキバイ



平成27年5月現在
試験操業対象種:64種



試験操業で水揚げされた水産物は、中通りや山形県米沢市方面へも出荷されている。
⇒道路網強化により水産物の鮮度向上に繋がるなど、漁業再興への寄与も期待される。

【松川浦漁港】

震災前漁獲量 約15,000t/年

うち、相馬市外 8割 (流通先:山形、仙台、いわき、中通り等)

相馬市内 2割 (地場消費)

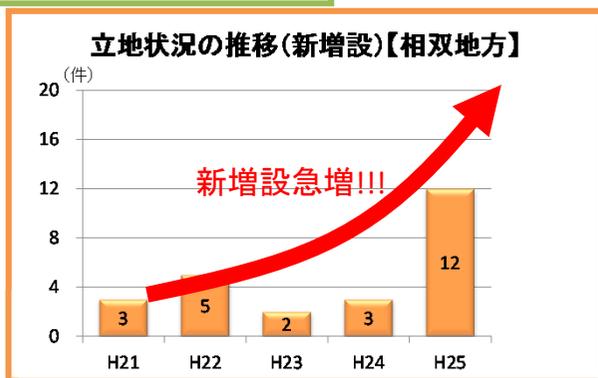
【政策③】 企業立地の促進

立地補助金による企業立地支援

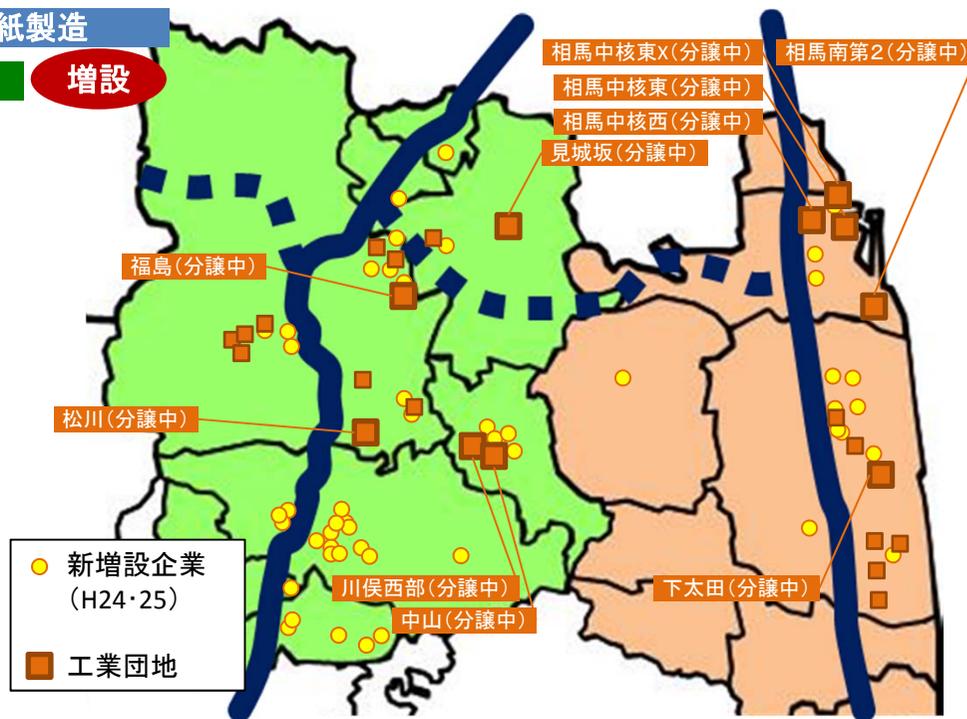
◆ふくしま産業復興企業立地補助金

工場等を新設又は増設する企業を支援し、生産規模の拡大と雇用を創出。

⇒工場の新增設が急増中。物流を担う道路網の充実により、更なる立地促進が期待される。



加工紙製造
伊達市 増設



パルプ・紙・紙加工品製造
福島市 新設

電気機械器具製造
南相馬市 増設



福島県企業立地課職員の声

- ・企業誘致にあたり、交通網の充実は大きな武器。
- ・相馬福島道路の整備により、相馬～福島～米沢での誘致の幅が広がる。
- ・通行料が無料であることも大きなPRポイントである。

【政策④】最先端の医療・研究拠点整備

将来にわたる県民の心身の健康の維持・増進を図る

福島市に最先端の医療・研究拠点を整備中

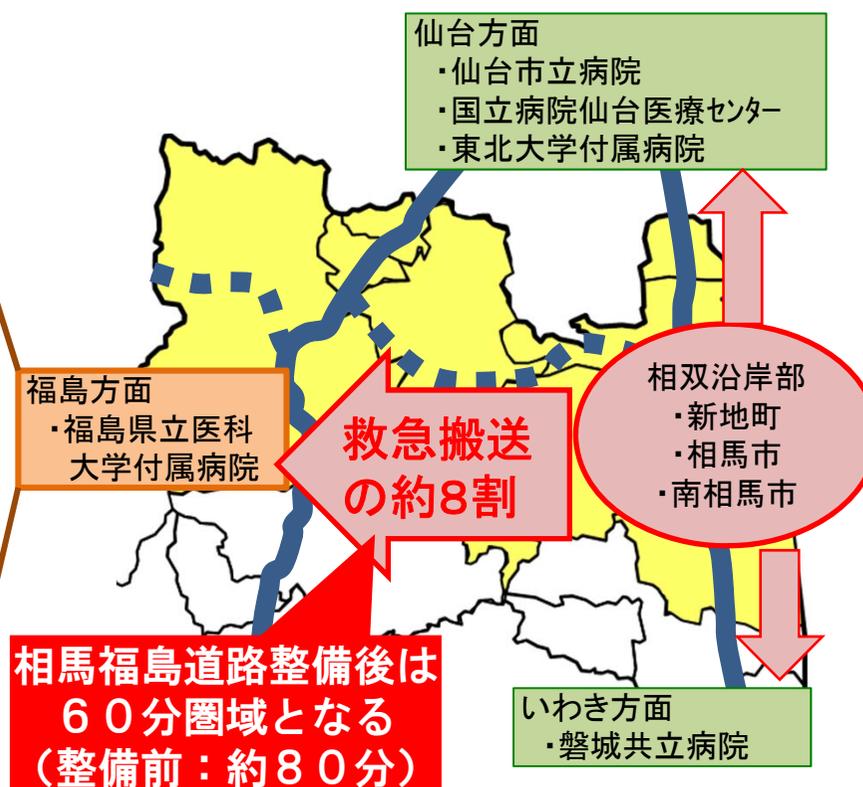
→ 相馬福島道路の整備により沿岸部の医療サービス向上にも寄与

ふくしま国際医療科学センター
〈平成28年度全面稼働〉



【5つの機能】

- ①放射線医学県民健康管理センター
- ②先端臨床研究センター
- ③先端診療部門
- ④教育・人材育成部門
- ⑤医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター
→治療薬・診断薬の開発と産官学共同研究



▲相双沿岸部3市町の救急搬送の状況

【政策⑤】 相馬福島道路と連携した道路ネットワーク強化

復興支援道路『相馬福島道路』の整備効果を最大限に発揮するため、周辺アクセス道の要対策箇所(幅員狭小、混雑等)において県事業を展開中。



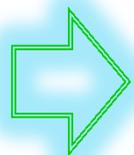
利活用に向けた取り組み

整備効果が早期かつ幅広く波及し、周辺地域の活性化及び道路利用者の利便性向上に繋がるよう、地元としても周辺道路網対策や利活用促進策を検討を行っている。

- 福島・伊達地方 東北中央道利活用に関する打合せ(H26.11.28)
- 相馬福島道路 道路整備に関する懇談会(H27.3.26)

【意見】

- ・相馬港の利用促進に向けたマーケティングも必要。
- ・常磐自動車道との連携により、時間短縮は観光にとって追い風となる。
- ・沿岸部での人材不足を、内陸部が通勤になることで補えるのではないか。
- ・通過交通のみとならないように、魅力ある個性あるまちづくりが必要。



相馬福島道路のストック効果が最大限発揮できるよう、
今後も関係機関が一体となって、議論を重ねていく。

政策（まとめ）

- ①避難者支援【被災地と避難先の往来円滑化】
- ②沿岸部における物流基盤強化・漁港再興【物流拠点としての相馬港との連携】
- ③企業立地の促進【工業団地や工場の新增設拡大の期待】
- ④最先端の医療・研究拠点整備【医療サービスの向上、緊急搬送時間の短縮】
- ⑤周辺道路との道路ネットワーク強化【アクセス道路の幅員狭小箇所等の解消】
- ⑥観光振興に対する支援【県北・相双地方への誘客効果】

相馬福島道路沿線で開通を見据えて、
復興に向けた各種政策が展開されている



開通時期の遅れは福島県の復興の遅れに繋がる!!

「平成28年度以降の復旧・復興事業のあり方」平成27年5月12日（復興庁）

- 被災地の復興のため、真に必要な事業に重点化
- 復興に資する事業でも、全国共通の課題への対応との性格を併せ持つ事業について、**自治体負担を導入。**
- 自治体負担の程度は、一般事業の負担と比べて十分に低減。
(復興の基幹的事業や原発由来の事業は、引き続き自治体負担ゼロ)

【自治体導入を検討している主な事業】

- ① **社会資本整備総合交付金(復興)**
 - ② 道路整備事業(国)・港湾整備事業(国)
- ※避難地域12市町村の事業は除く(県で実施する事業は除かれない)

- ◎復興事業は、復興が成し遂げられるまでスピード感をもって実施しなければならない。
- ◎地方負担が生じることにより、通常予算を圧迫する。
- ◎県民の安全・安心を確保するために必要な公共事業の実施に遅れが生じる。

復興道路の完成に遅れが生じないように、復興枠による別枠での確実な予算確保が不可欠となる

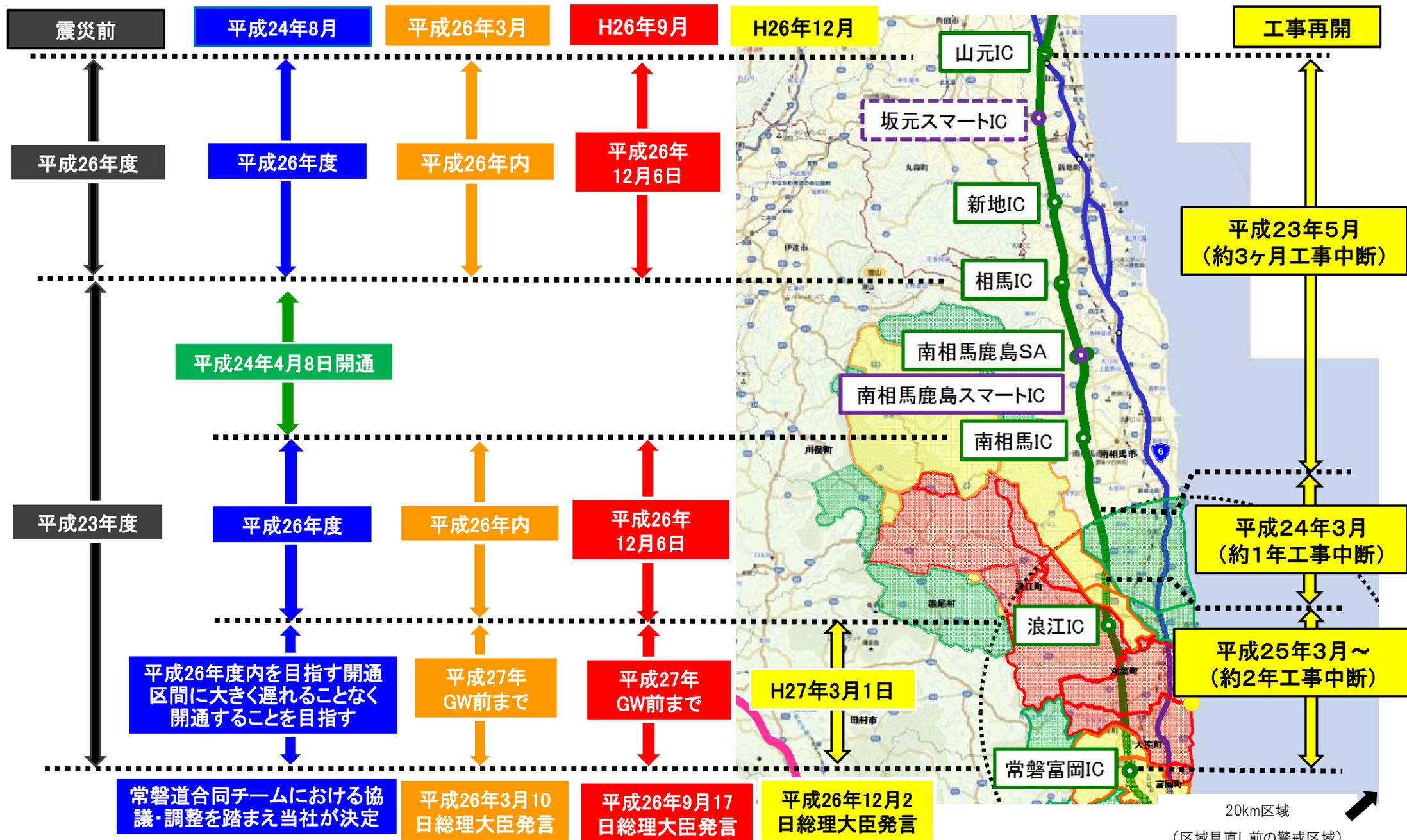
常磐自動車道の整備効果

平成27年6月4日

東北支社 建設事業部

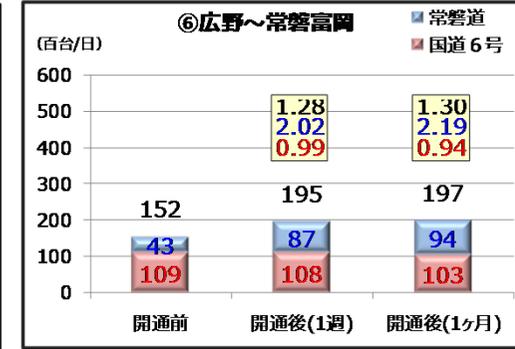
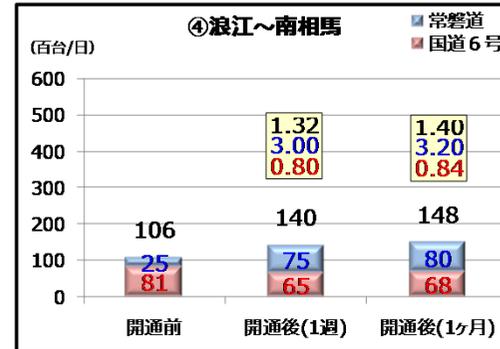
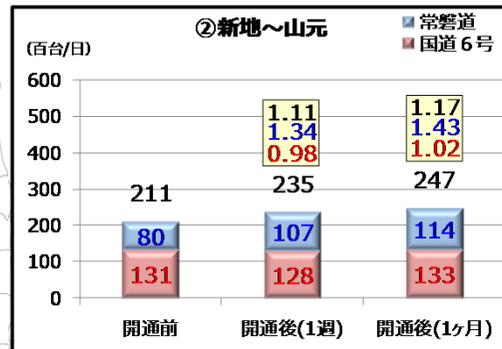
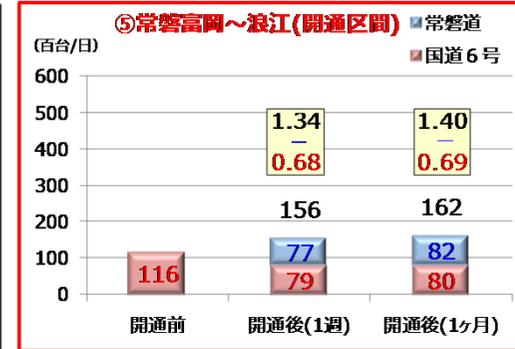
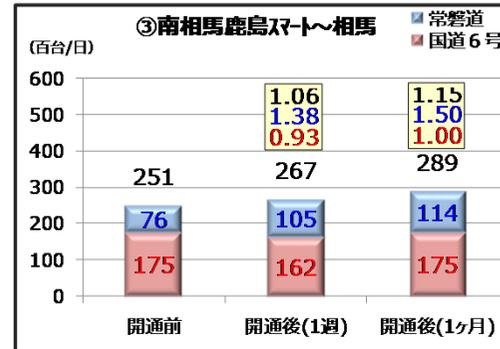
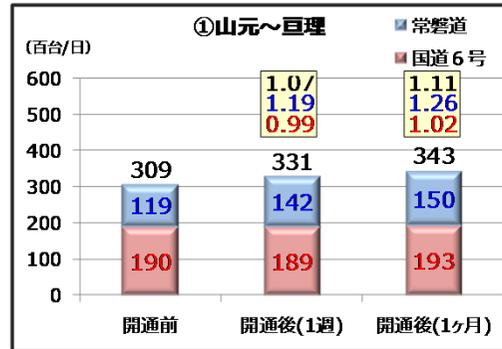
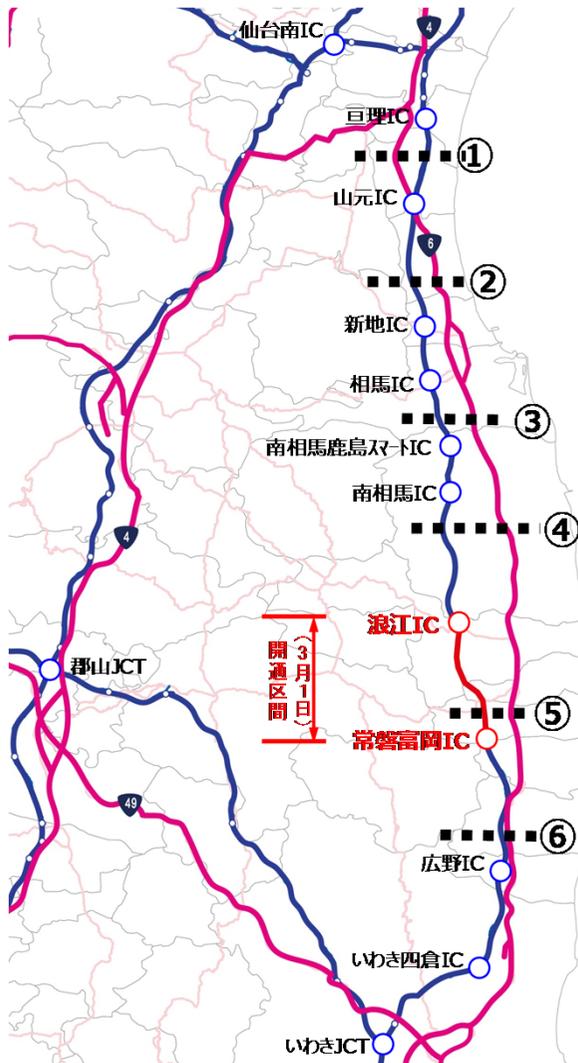


1. 常磐自動車道開通目標見直し経緯



1. 常磐道全線開通後の交通状況

- 常磐富岡IC～浪江IC間の交通量（開通後1ヶ月）は8,200台／日
- これまで開通していた常磐道の隣接区間の交通量は、
 - ・ 浪江IC～南相馬IC間では3.2倍（2,500台／日⇒8,000台／日）
 - ・ 広野IC～常磐富岡IC間では2.2倍（4,300台／日⇒9,400台／日）と大幅に増加
- 常磐道と並行する国道6号との交通量の合計は、1.4倍に増加（11,600台／日⇒16,200台／日）

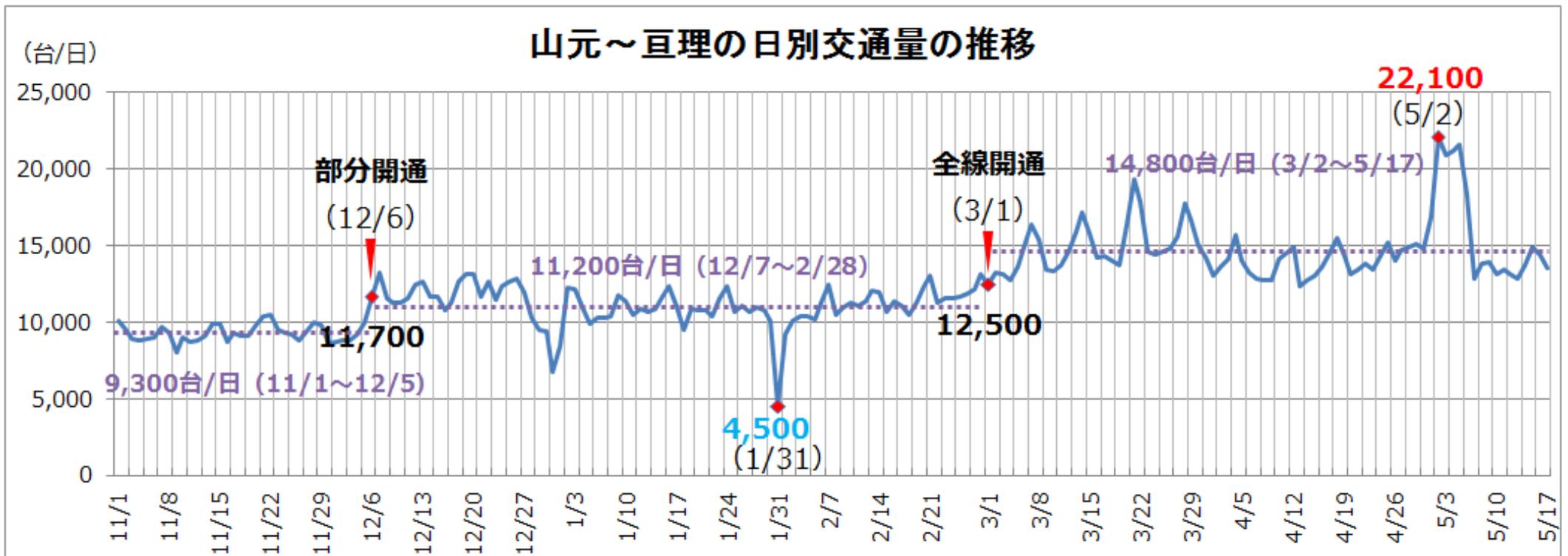


【凡例】
 開通前との伸率
 上段：常磐道+国道6号
 中段：常磐道
 下段：国道6号

開通前 : 平成27年 2月 22日(日)～ 2月28日(土)の日平均値
 開通後(1週) : 平成27年 3月 2日(月)～ 3月 8日(日)の日平均値
 開通後(1ヶ月) : 平成27年 3月 2日(月)～ 4月 1日(水)の日平均値

1. 常磐道全線開通後の交通状況（開通済み区間交通量の推移）

- 開通済みであった山元～亶理間は、新規開通により交通量が増加
- 常磐富岡～山元間の開通前と比べ最大で約2倍に増加



2. 時間短縮による企業活動への支援

- 常磐道利用による輸送距離の短縮、営業拠点間の利便性向上
- 常磐道開通により復興事業に従事する方々の通勤の負担が軽減

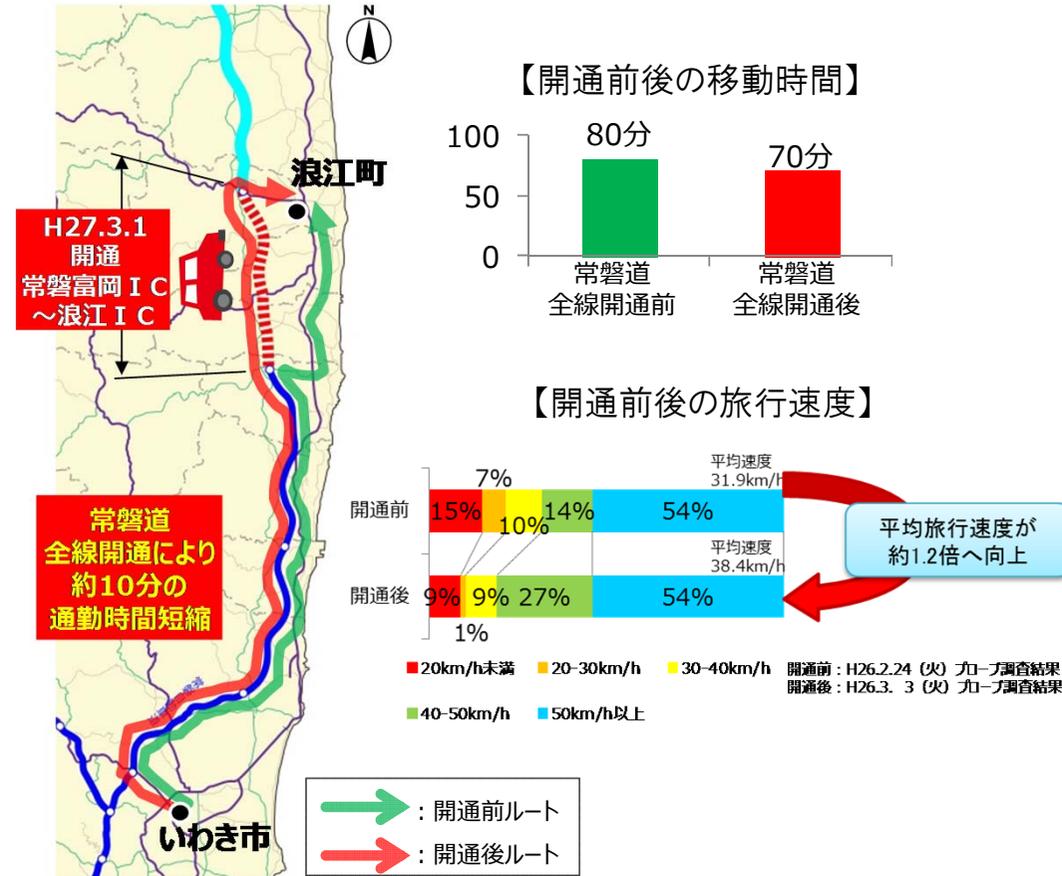
▼いわき市～仙台市間を走行した場合の距離、時間



■ 企業の声（自動車部品販売企業）

- ・常磐道の開通によって、行き来しやすくなったことから、**営業活動も週1～2回ほど増え、効率化が図られた。**
- ・常磐自動車道は、**東北自動車道に比べて、勾配やカーブが少なく、大変走りやすい道路と実感している。**

▼いわき市～浪江町間を走行した場合の時間



■ 復興事業者の声（通勤関連）

- ・浪江町の復興現場への通勤者は約500人。その多くはいわき市から時間をかけて通勤している。常磐道を通勤ルートとして利用でき、**作業員の通勤負担が軽減した。**

4. 常磐道と東北道によるダブルネットワークを形成

- 東北道における災害等の緊急時の代替ルートとしての機能を構築
- 常磐道を東北道と比べて降雪が少なく、冬季の安定的な交通を確保

▼東北道(福島市)・常磐道(いわき市小名浜)の降雪状況の比較



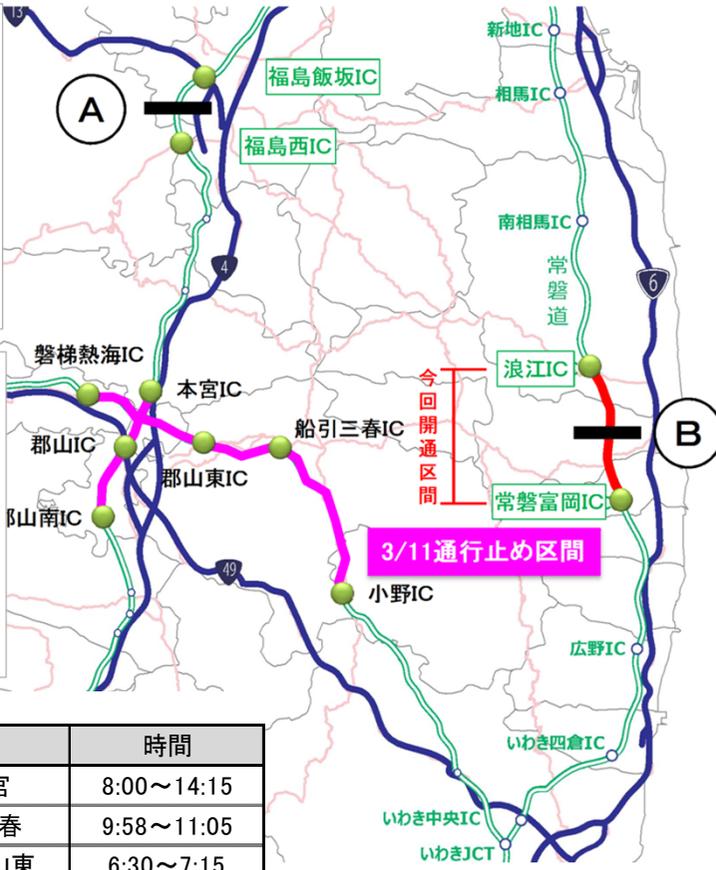
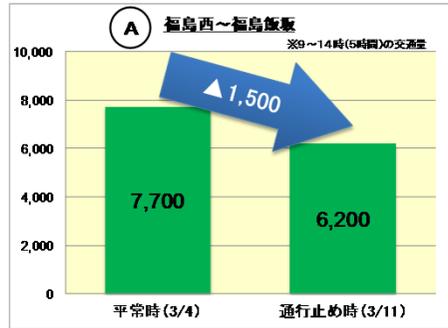
福島市 (福島気象台)
 年間平均降雪日数 : 73日/年
 10年最大積雪深 : 54cm
 年間平均降雪深 : 129cm

いわき市 (小名浜気象台)
 年間平均降雪日数 : 21日/年
 10年最大積雪深 : 7cm
 年間平均降雪深 : 2cm

東北道と比べ常磐道を通る地域では

降雪日数が約1/3倍

▼3月11日の大雪による通行止め時の交通状況



【3/11通行止状況】

道路名	区間	時間
東北自動車道	郡山南～本宮	8:00～14:15
磐越自動車道	小野～船引三春	9:58～11:05
磐越自動車道	船引三春～郡山東	6:30～7:15
磐越自動車道	郡山東～磐梯熱海	8:50～14:15

常磐道の交通量は平常時に比べ700台増加

※5時間交通量 (9時～14時)

5. 新たな高速バス便が新設

■ 常磐道の全線開通を契機に相馬・南相馬～東京間の高速バスが4月1日より運行を開始

高速バス新設概要

- ・運行開始日：平成27年4月1日予定
- ・運行便数：1日1往復
- ・所要時間：約5時間
- ・料金：片道4,500円（東京～相馬）
- ・運行会社：(株)桜交通(本社：福島県白河市)

高速バス運行開始式（4/1）



■ バス事業者の声

- ・当初東北道ルートを検討していたが、常磐道の全線開通が早まったことや、沿線自治体からの強い要望もあり、常磐道ルートでの高速バスの運行を決めた。
- ・今後はこの相馬・南相馬～東京間の利用状況などを見て、増便の検討や仙台～東京間について、常磐道経由への移行も考えたい。



常磐道経由の
相馬・南相馬～東京間の
高速バス直行便が新設

最初の整備計画から44年。 おかげさまで、全線開通！

NEXCO

◆ 平成26年12月6日
浪江～南相馬間、相馬～山元間開通



開通式典



南相馬～仙台間高速バス

◆ 平成27年3月1日
常磐富岡～浪江開通
【常磐道全線開通】



開通式典



開通後の交通状況(双葉町内)

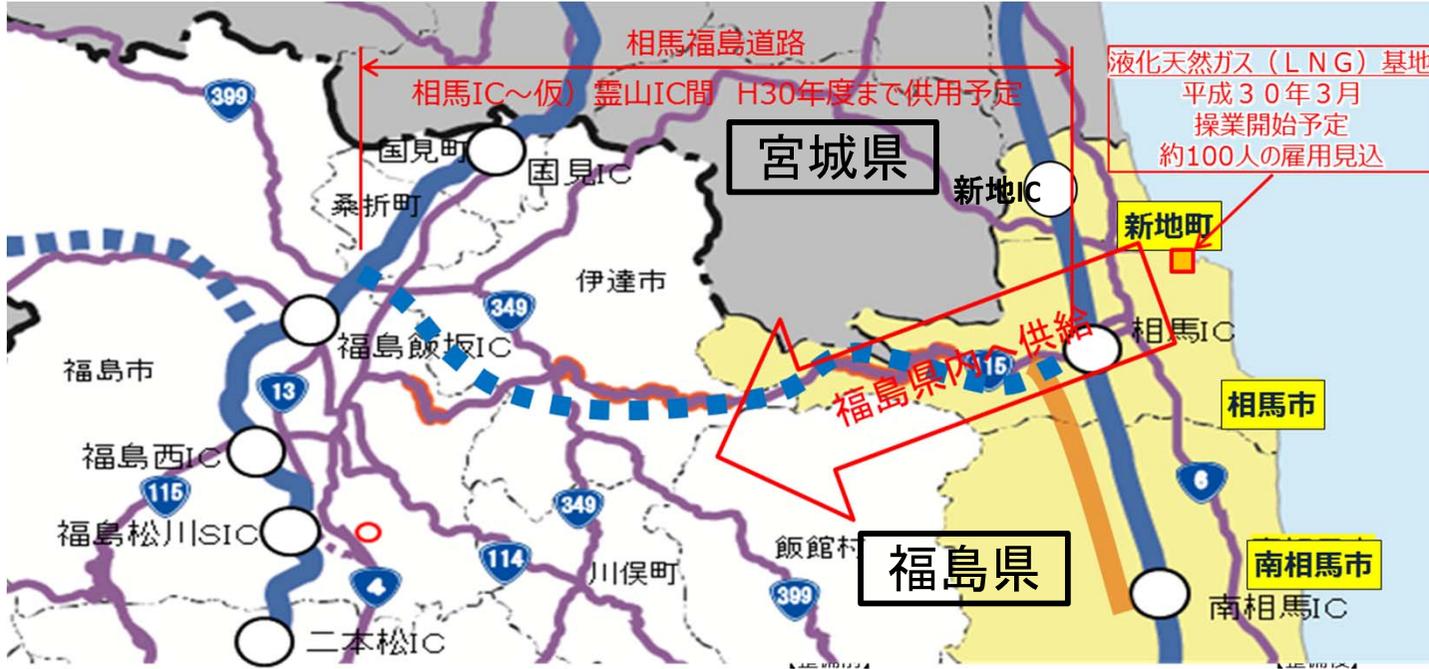
ご清聴ありがとうございました



Future From Fukushima.

あなたに、ベスト・ウェイ。

- ◆相馬港（新地町）に立地するLNG基地（H30操業予定）は宮城県、福島県への供給基地となる。
- ◆県内の輸送にはタンクローリーで出荷予定、中通り方面へのアクセスに相馬福島道路が必要。



新地町のLNG基地 関連企業集積へ 復興の一助目指し起工式

新地町の相馬港4号埠頭に液化天然ガス（LNG）基地を建設する石油資源開発は、基地の完成に向け周辺に工場を誘致する。

同社は、LNGが常用を想定している。周温の天然ガスに戻る際に立地する企業も合に周囲から大量の熱を奪って発生する「冷熱」や、発電所の排熱を利用する企業の集積を目的としている。

LNG基地と、基地に隣接して建設を計画している火力発電所でそれぞれ百人程度の探

石油資源開発の渡辺修社長は十三日、基地の起工式に先立ち記者会見を開き、「復興の役に立てればこの上ない喜び。関係者とスクラムを組んでいき

LNG基地が建設される相馬港4号埠頭

H26.11.14福島民報

相馬LNG受入基地の概要

- ◆設備概要：LNG貯蔵タンク1基（23万kl）、LNG外航船受け入バス、LNG内航出荷バス（LNG内航船受入兼用）、LNG気化器2基、気化ガス用熱量調整設備、LNGタンクローリー出荷設備（5レーン、30t/h）
 - ◆接続パイプライン：
 - ・ルート、距離：福島県新地町～宮城県岩沼市、約40km
 - ・仕様：口径20B（20インチ）、設計圧力7MPa（メガパスカル）
 - ◆施設完成：2017（平成29）年12月（予定）
操業開始：2018（平成30）年3月（予定）
 - ◆投資金額、等
 - ・相馬港受入基地 約20ha 接続パイプラインの建設合計：約600億円
 - ・資金調達：自己資金、借入
- （出典：JAPEX資料）

<建設予定地（福島県相馬郡新地町 相馬港4号埠頭地区）>



<完成予想概念図>



◆LNG基地をはじめとする相馬港の物流拠点の開発は、新地町の震災復興の推進、雇用創出に大いに期待。内陸部とのアクセス性向上のため「復興支援道路 相馬福島道路」の早期完成が必要不可欠

[要望活動 補足資料]

復興支援道路 (国道115号)

相馬福島道路の早期開通 『相馬の声を届けよう』



開通目標に遅れることなく一日も早い開通を!!

[高速道路建設促進相馬協議会]

【相馬地方は困っています】

国道115号の線形不良、事故多発、災害通行規制、度重なる通行止め



- 国道115号は相馬市と福島市を結ぶ重要な路線ですが、**線形不良区間が多く、事故が多発**しています。
- 大型車両の通行が困難**な状況であり、海上コンテナ車両等が通行できません。
(相馬市側 R=25m、最急勾配8.4%)
- 豪雨、土砂災害**などの通行規制区間があり、**通行止めが多く、冬季の降雪時はスタック車両**などにより国道が利用出来なくなってしまう。(災害等で過去10年で13回の通行止め、冬期間においては、H26で4回/年通行止め)
- 国道115号が通行止めになると**相馬市玉野地区の集落が孤立**してしまいます。

▼線形不良箇所R=25m(最急勾配8.4%)



▼交通事故発生等による通行止め



▼落石災害発生(H18)約1ヶ月全止



▼緊急輸送道路としての利用



【相馬福島道路の活用(暮らし:利便性向上・人口流出低減)】

相馬～福島間の通行規制・通行障害の解消と、 地域住民が安全に安心して暮らせる生活環境を確保

- 相馬市街地から、山地部の相馬市玉野地区を経て、福島市方面への通行車両の定時制、安全性が向上し、買い物や通院、救急医療など、生活の利便性が向上します。
- 相馬～福島間の、通勤や通学可能範囲が拡大し、人口流出が低減され、就業機会も増加します。
- 通行規制などで、相馬市街地への通路が遮断されていた相馬市玉野地区の孤立が回避され、生活の安全・安心が確保されます。



(相馬市区長会)

玉野地区
第4行政区長
伊藤 一郎



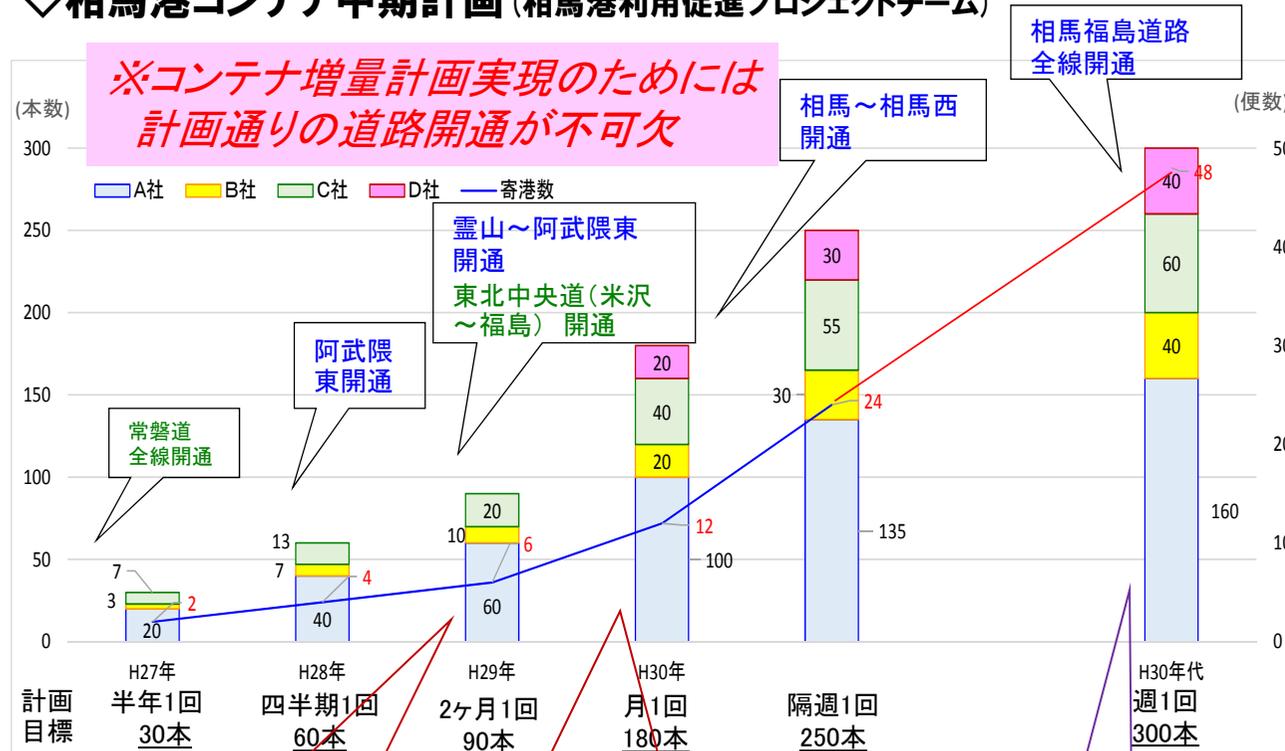
- ・玉野地区住民は、相馬市街地へ通勤・通学し、病院や福祉施設にも通っています。
- ・豪雨時や豪雪時などは、国道115号が通行止めとなることが多く、相馬市街地と行き来することができなくなり集落が孤立することがあります。
- ・相馬福島道路が開通すると、通勤や買い物などの生活が便利になり、家族が安心して地元で暮らせるようになるため、一日も早い開通を望みます。

【相馬福島道路の活用(産業振興:港湾の利用促進)】

(重要港湾)相馬港からの物流圏域を拡大し、相馬港の利用を促進します

- 線形不良や幅員狭小の解消により、福島内陸及び山形県内陸部からの相馬港を利用したコンテナによる物流ルートが確保され相馬港の利用が促進します。
- 現在の石炭取扱いに加えて、海上コンテナの取り扱いが大幅に増加し、南東北の海の玄関口として物流拠点となり物流の効率化が促進されます。

◇相馬港コンテナ中期計画 (相馬港利用促進プロジェクトチーム)



・相馬共同自家発電
H29年12月操業開始予定
石炭火力発電
(石炭、バイオマス)

・石油資源開発H30年3月操業開始予定
LNG受入基地(天然ガス)
・オリックスH30年操業開始予定
石炭火力発電(石炭、バイオマス)

・コンテナ航路
開設時目標
週1便@7本

(福島県相馬港利用促進協議会)
日本通運(株)相馬海運支店
支店長 佐藤 正一
相馬港湾運送(株)
代表取締役 立谷 幸雄

H27年度は、不定期航路になる前と同等の取扱量30本/年への復活を目指し、荷主企業に対し、助成制度のほか道路整備状況や開通予定を紹介することで、今まで以上に効果的なポートセールが可能となり、新たな利用企業の発掘を進めます。H30年LNG基地操業開始により天然ガスや冷熱を利用した企業誘致や相馬福島道路の開通に伴う新たな企業の利用が期待されます。相馬福島道路の全線開通後のH30年代には、更なる相馬港利用企業の増加を見込み、コンテナ航路開設時目標である週1便及び取扱本数300本/年を目指しており、計画通りに、一日も早く開通するよう期待しています。

【相馬福島道路の活用(産業振興:企業誘致・流通・雇用)】

相馬の地場産品や工場製品の流通エリアを拡大し、企業参入を促進

- 相馬中核工業団地などへの企業誘致を積極的に進め、雇用を促進します。
- 液化天然ガス燃料基地、再生可能エネルギー技術の活用などにより、新たな産業の創生を図り、相馬地域の産業・経済の再生を目指します。
- 相馬地方の地場産品や工業製品の出荷・流通エリアの拡大や、営業エリアの拡大が可能となり、企業の増加や地元企業の売上が向上し、従業員の所得向上等が期待できます。

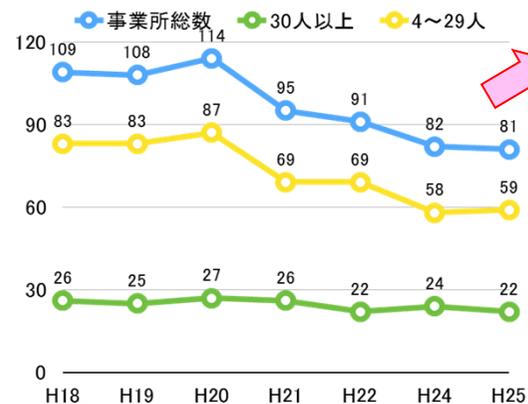
[相馬LNG基地完成予想図]



[建設予定地:相馬港4号埠頭地区]



◇相馬市の事業所数



※震災後に、17の企業が工場増設もしくは新設を行い、操業を開始しています。さらに、企業誘致・新規参入を進めます

◇相馬市の工業製品出荷額(億円)



出荷額は増加

(相馬中核工業団地
企業誘致促進協議会)
会長



相馬商工会議所
会頭 新妻 良一

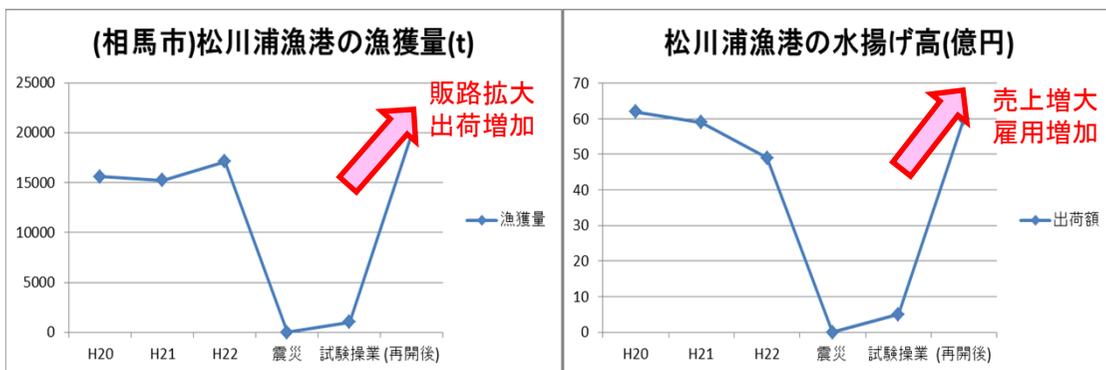
- ・平成30年3月に操業開始する相馬LNG基地の進出と併せて、関連企業の誘致を促進していきます。
- ・相馬福島道路の開通は、相馬中核工業団地への企業誘致や相馬地方の地場産品、工業製品の出荷・流通エリアの拡大や、営業エリアの拡大が可能となり、新規企業の参入、企業の設備投資の増加、販売額の増加、従業員の所得向上、雇用の促進等が見込まれ、相馬地域の地方創生に大きく寄与するものと期待しているところであり、一日も早い開通を望みます。

H30相馬LNG操業開始、企業誘致に相馬福島道路の開通が不可欠

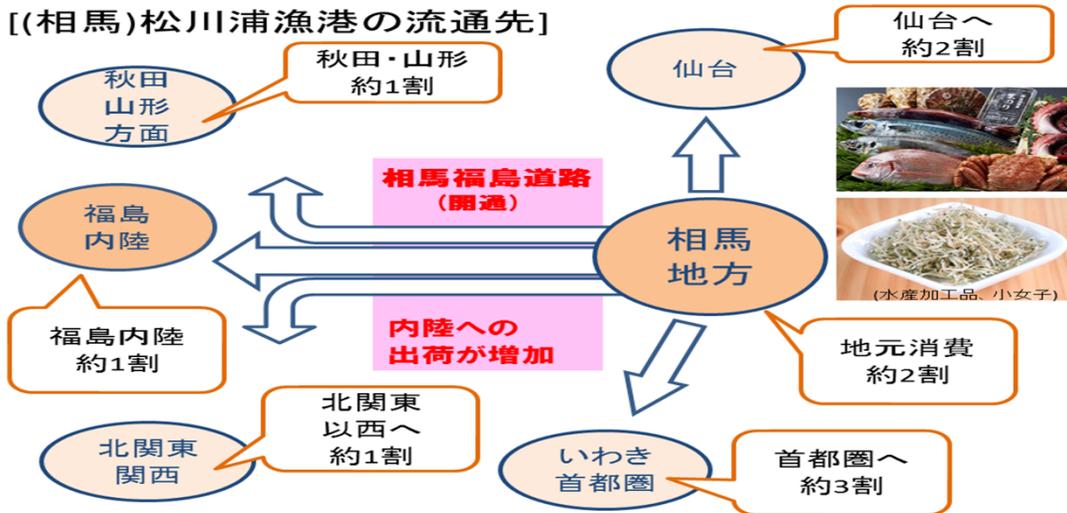
【相馬福島道路の活用(産業振興:漁業)】

相馬地方の地場産業である漁業の復活・再生と販路拡大を促進

- 津波災害や原発事故による漁獲制限、風評被害により、福島県浜通りの漁業は壊滅的なダメージを受けましたが福島随一の近海水揚げを誇る相馬地方の漁業を復活・再生させます。
- 消費地域の拡大による漁獲量の増加と、加工産業等販売エリアの拡大により、漁業従事者の雇用環境の改善と後継者の育成を促進します。



[(相馬)松川浦漁港の流通先]



※本操業の開始前には、相馬福島道路の開通が不可欠

相馬双葉漁業 協同組合

代表理事(組合長)
佐藤 弘行

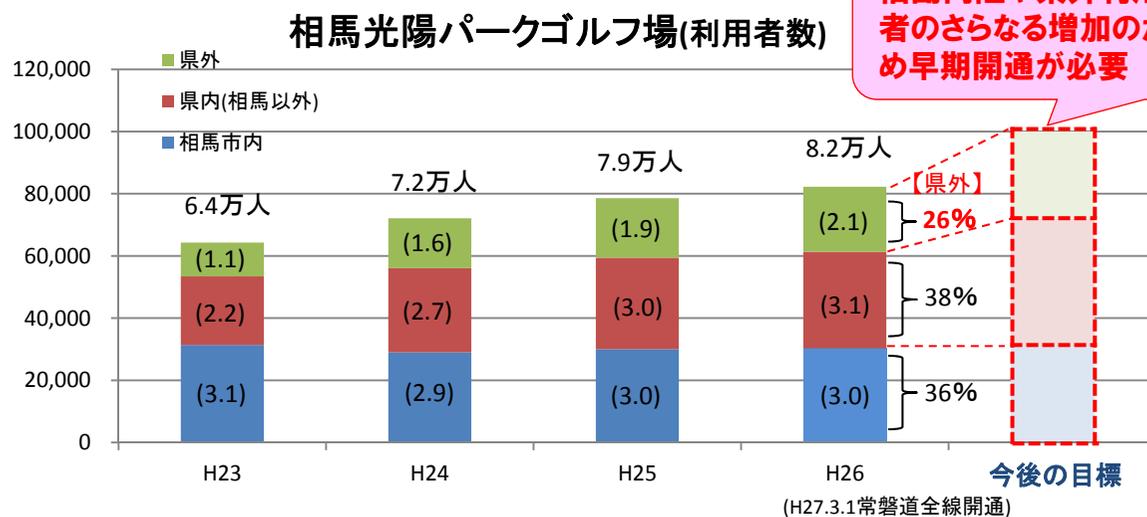


- ・現在は試験操業中ですが、震災前、相馬市松川浦漁港の鮮魚の消費割合は、地場消費が約2割で、相馬市外への出荷が約8割です。北は仙台方面、南はいわき、首都圏方面、一部福島県内陸部や山形方面にも出荷しておりました。
- ・常磐道の全線開通により首都圏への出荷量の増加が見込まれていますが、**相馬福島道路が開通すれば**、これまで以上に、**トラック輸送が容易となるため**、**福島県内陸部や山形方面、関東方面への販路拡大が見込まれ**、**本操業に移行した際の出荷に大きく弾みがつくもの**であり、本操業開始前の早期開通を期待しているところです。

【相馬福島道路の活用(観光振興)】

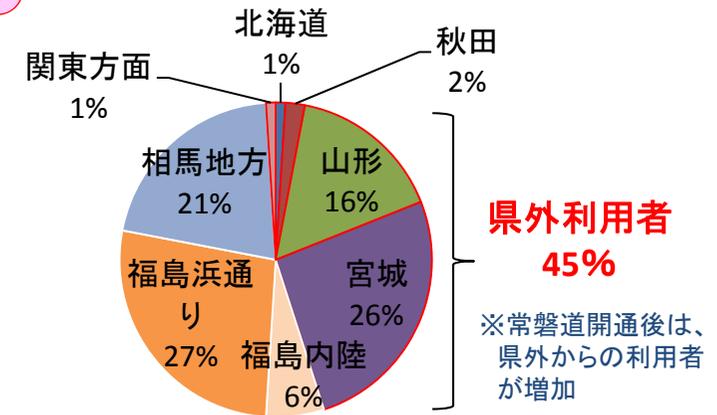
東日本大震災により被災した、名勝松川浦の再生と、 スポーツ観光振興により、相馬地方の創生を目指す

- 美しい自然と温暖な気候に恵まれた相馬地方は、松川浦県立自然公園や相馬野馬追や相馬民謡など豊富な観光資源があり、観光窓口として、「相馬観光復興御案内処」を設置し、観光情報の提供や宿泊所の調整などワンストップサービスで提供するなど、観光振興を促進します。
- 相馬市ではスポーツ交流人口の拡大を目指した取り組みを促進しており、パークゴルフ場、サッカー場、ソフトボール場、全天候型の相馬こどもドームなどの施設を整え、各種大会や合宿等のイベントを企画して、交流人口の拡大を促進します。



福島内陸や県外利用者のさらなる増加のため早期開通が必要

常磐道全線開通記念パークゴルフ大会
参加者(約300名)地域別 (H27.3.15)



(相馬市スポーツ交流促進協議会)
NPO法人
光陽パークゴルフ
専務理事
門馬 善治郎



- ・パークゴルフ場の利用者は、常磐道の開通などによって、県外からの利用者が増えつつあります。
- ・さらに、相馬福島道路の開通により、福島内陸や山形・北陸方面などの県外の利用者の増加を見込んでいるため早期の開通を望みます。
- ・各種大会参加者や、冬季の利用者確保のため、様々なイベントを企画して、スポーツ交流を促進し相馬地方の観光振興を進めていきます。

被災地の復興を支援し、「地方創生」に資する
復興支援道路『相馬福島道路』については
確実に整備を促進し、一日も早い開通を図ること

大型車のすれ違いが困難



積雪により道路幅員がさらに狭小



急勾配・急カーブの連続で事故多発



スタック車両等による頻繁な通行止め



インターチェンジと一体となった「道の駅」による地域活性化のために 復興支援道路の早期整備を!!

伊達市

資料-7-3

- 相馬福島道路の整備に合わせ、(仮)霊山IC部に道の駅を整備予定
- 県内外からのアクセス性が向上し、市内への観光客の増加が見込まれるため、「道の駅」を活用して観光地及び周辺地域の発展、活性化を目指していく
- 伊達市のシンボルである霊山をはじめとした魅力ある地域資源をアピールする場、市民の地域交流の場、災害に備えた救援活動の場として活用し、復興へ向かう伊達市を積極的にPRしていく

～伊達市の歴史観光施設～



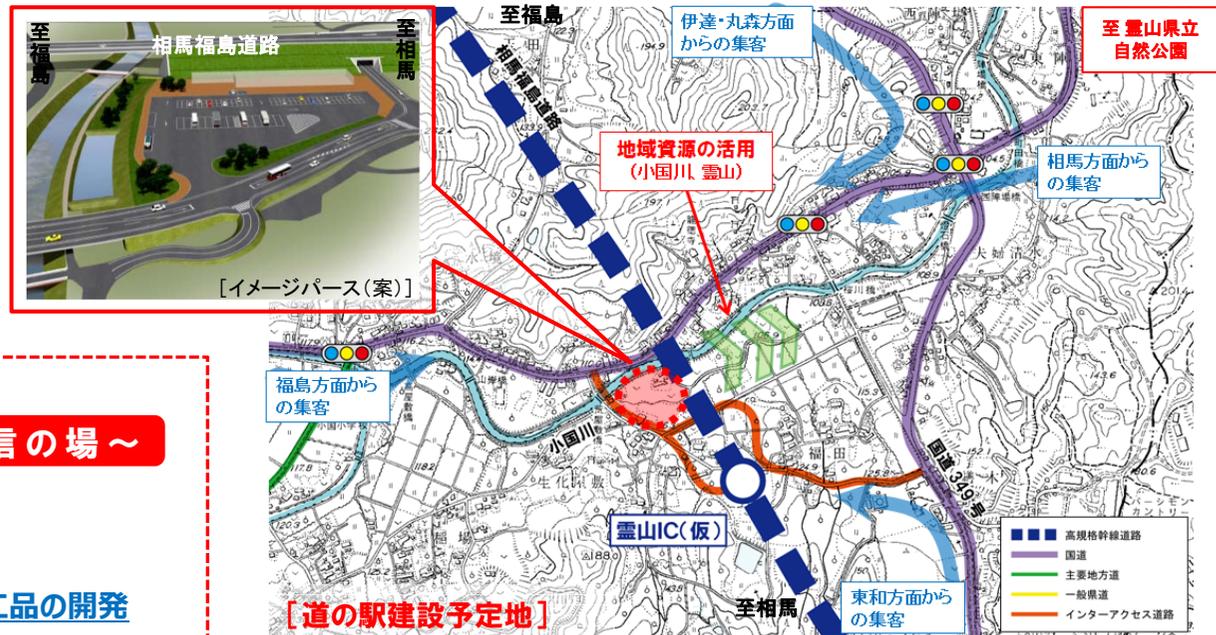
梁川八幡神社

伊達政宗が16歳のときに戦勝祈願のため参詣したことで知られ、伊達氏の氏神として崇敬された。現在、御尊像を特別公開中



霊山神社

明治14年創建。北畠親房、顕家、顕信、守親を祀る。670年以上の伝統を持つ瀬船舞楽(らんじょうぶがく)が春の例大祭で披露される

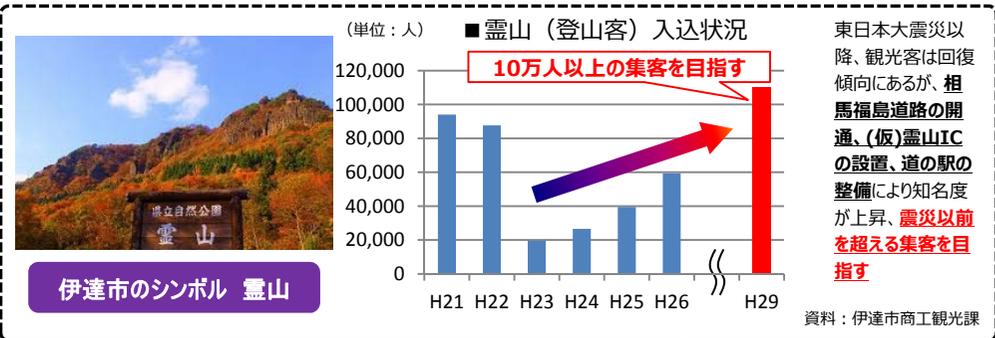


【伊達市「道の駅」コンセプト】

～伊達市らしさが息づく交流と発信の場～

1. 伊達市の総合案内をする道の駅
◇ 道路交通情報、観光情報の提供
2. 独立採算でき持続可能な地域発展を目指す道の駅
◇ 産地直売所や農家レストランの開設、地元加工品の開発
3. 震災からの復興と地域振興策を支援する道の駅
◇ 放射線情報の提供、地域のイベント広場
4. 地域防災と災害時の支援活動の拠点としての道の駅
◇ 緊急時の避難所、物資提供や活動支援の拠点

「道の駅」を中心とした歴史観光の発信や周辺地域の整備、インターチェンジの立地を生かした商業施設や企業誘致など、地域活性化のためには **一日も早い“全線開通”が必要不可欠!**

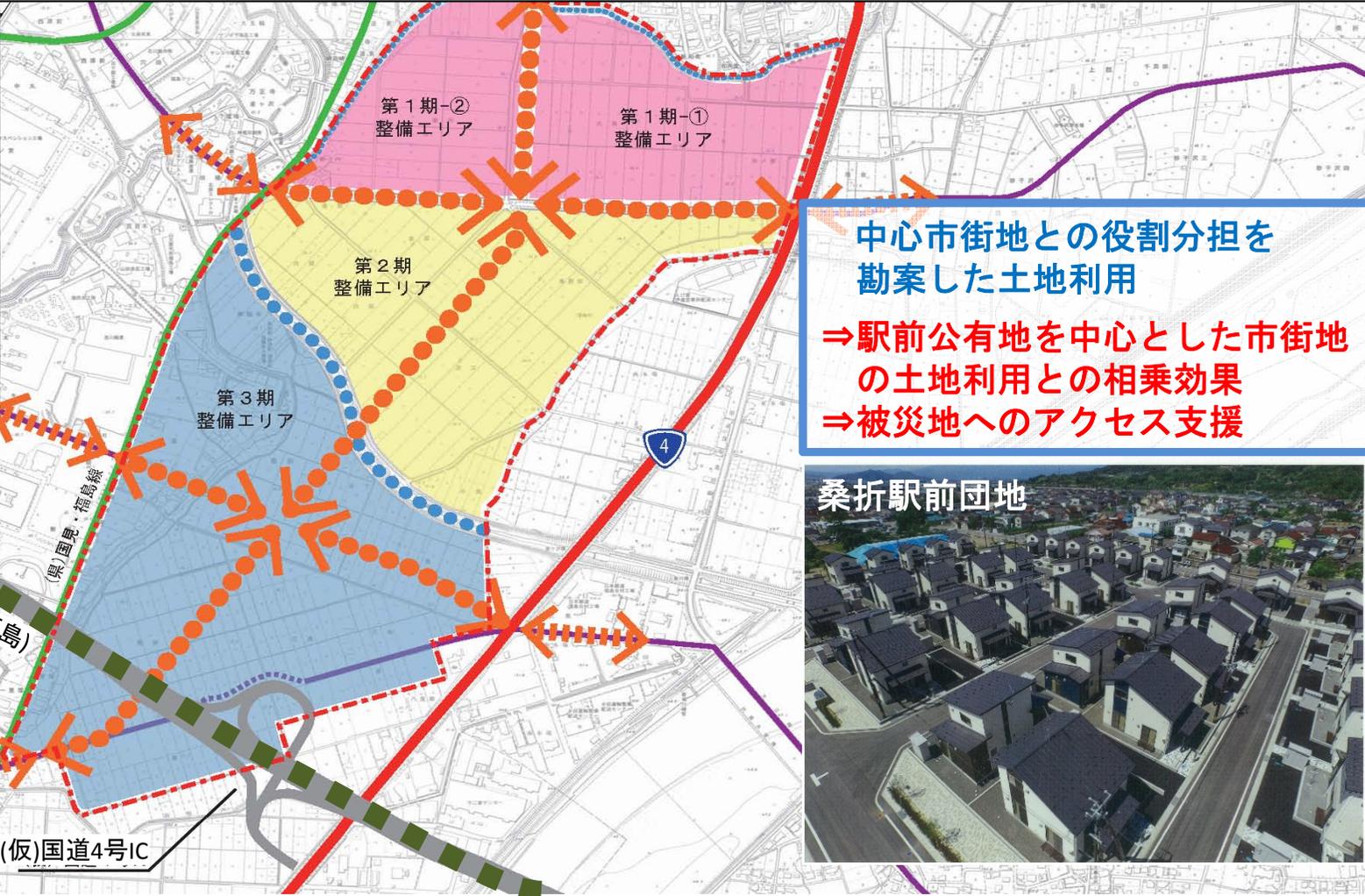


～(仮称)国道4号IC周辺土地利用検討～

- ◆ H26.9(仮)国道4号IC周辺開発を盛り込んだ、桑折町都市計画マスタープランを策定
- ◆ 相馬福島道路による広域的な連携の促進及び(仮称)国道4号ICの効果を最大限に活かした土地利用により、復興支援拠点としての機能を目指していく
- ◆ 国道4号の西側沿線地区について、沿道土地利用の促進を図るため、流通業務地としての検討を行い、新たな雇用の創出・人口の流入等地方創生につなげていく



桑折工業団地



中心市街地との役割分担を
勘案した土地利用
⇒駅前公有地を中心とした市街地
の土地利用との相乗効果
⇒被災地へのアクセス支援



桑折駅前団地

桑折工業団地との連絡や
新たな工業団地の検討

流通の拠点としての
6次化事業等産業面の活性化

(仮)国道4号IC

福島市の雇用と活性化には、 復興支援道路の早期整備が必要！！

福島市は、相馬・福島道路等の利用促進のために

- 1 地場企業及び誘致企業のヒアリングを行い、復興支援道路の優位性の説明や相馬港の利活用の提案を行ないます

福島市は、雇用と経済の好循環のために

- 1 新たな工業団地を無料高速道路のIC周辺に計画しています
- 2 地域振興施設を無料高速道路のIC周辺に計画しています

福島市は、広域ネットワークを構築するために

- 1 福島市・相馬市・米沢市の商工会議所で運営している地域経済開発懇談会を積極的に支援します
- 2 平成28年度に福島市をメイン会場として、全国街道交流会議の全国大会を開催予定です。

復興支援道路 無料区間PRと企業ニーズ

市内に立地している企業に対し、

- 復興支援道路事業のPR
- 通行料無料のPR
- 相馬福島道路等の利用需要ヒアリング
- ICまでのアクセス道路改良要望ヒアリング

を実施する。

事例

ヒアリング実施

平成27年5月28日
協三工業（株） 代表取締役社長

- ①主に、鉄道車両、鋼構造物等を製造
機関車、金太郎、新幹線車両等、橋梁桁、門型クレーン桁等
- ②現在、船積の場合は仙台港を利用（海外輸出）
工場から仙台港まで3日を要す
1日走行、3時間制約・・・1回400万円
- ③大手クレーンメーカーとの新規契約、新規雇用
L=24mの長尺物を製作 ポールトレーラーによる輸送
- ④相馬福島道路が開通すれば、相馬港利用を検討
相馬港のサービス、ガントリークレーン他、情報が欲しい

工場内の様子 (福島市:佐倉西工業団地)



工場からICまでのアクセス道路の問題

